

敦賀発電所2号炉  
敷地の地形，地質・地質構造  
K断層と原子炉建屋直下を通過する  
破砕帯との連続性

補足説明資料1  
ボーリング柱状図・コア写真

令和5年10月6日  
日本原子力発電株式会社

余白

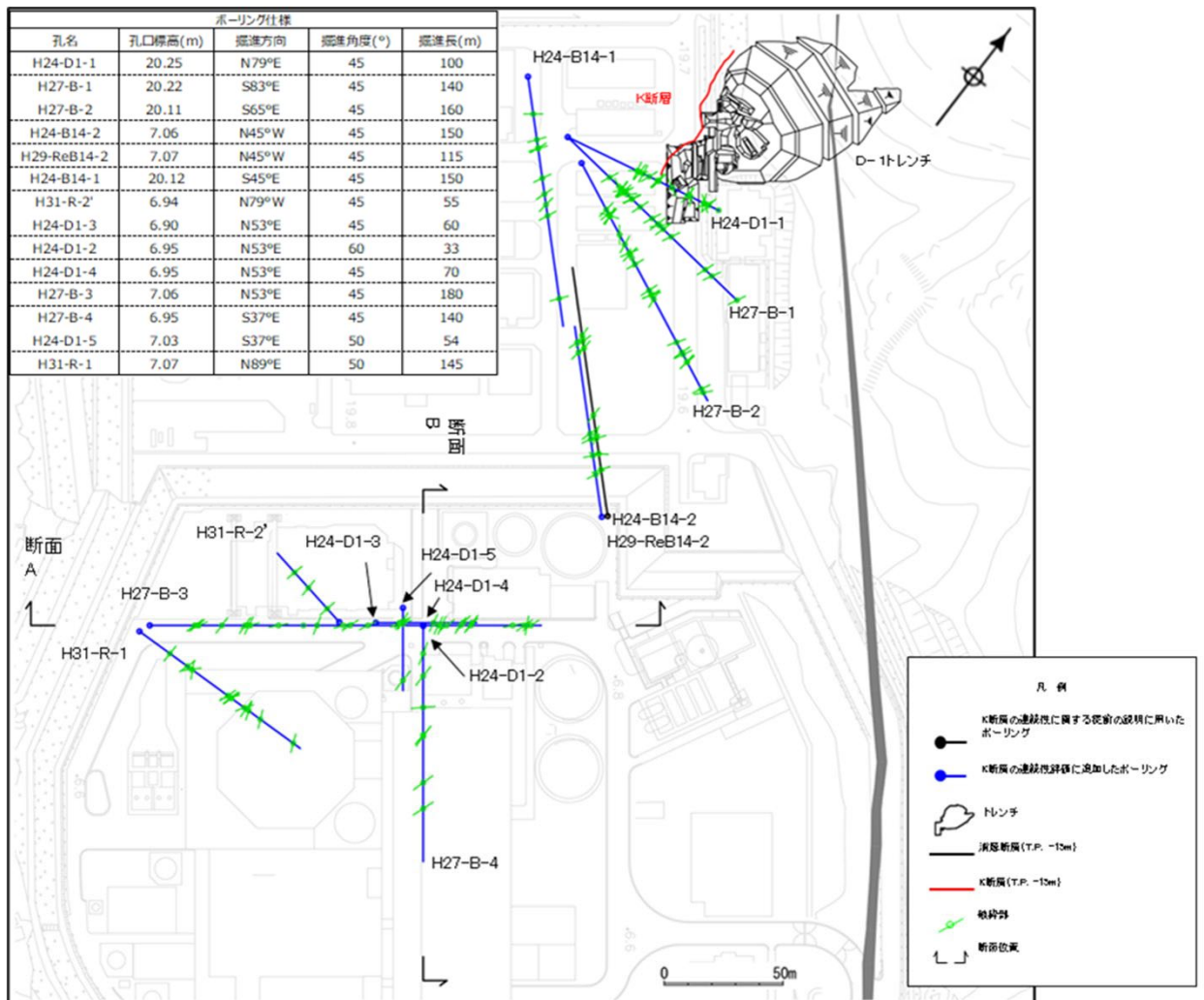
- 本資料は、K断層の連続性に関わる14孔についてボーリング掘削後に作成されたコア観察カードに基づき、ボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として取りまとめたものである。
- なお、コア観察カードに記載されている断層名、破碎帯名については、観察者の見立てであることからボーリング柱状図に記載することとし、その断層名、破碎帯名の妥当性については、「敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について(K断層と原子炉建屋直下を通過する破碎帯との連続性)」の連続性評価結果及び連続性確認結果で検討する。
- ボーリング柱状図は、一般社団法人全国地質調査業協会連合会社会基盤情報標準化委員会の「ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領(案)・同解説 平成27年6月」に基づき作成した。
- ボーリング柱状図を踏まえて、破碎帯の連続性評価等の後段の評価のために用いる肉眼観察による断層岩区分の評価のための破碎部性状の詳細観察結果については、「補足説明資料2 破碎部データ」に取りまとめる。

(参考)ボーリング柱状図に反映したコア観察カードに記載されている断層名・破碎帯名

孔名	破碎部深度(m)	コア観察カードにおける 断層名・破碎帯名
H24-D1-1	58.96～59.30	K断層
	60.12～60.15	G断層
H27-B-1	59.82～59.85	D-1
H27-B-2	61.29～61.69	D-1
H24-B14-2	109.16～109.46	D-1破碎帯
H24-D1-3	13.94～14.06	H-3d破碎帯
	14.41～14.52	H-4' 破碎帯
	34.23～34.52	D-1破碎帯
H24-D1-2	12.38～12.97	D-1断層
H24-D1-4	10.91～10.93	D-1破碎帯
H24-D1-5	10.19～10.21	H-3d破碎帯
	10.45～10.50	H-4' 破碎帯
	47.47～47.89	D-1破碎帯

# 目次

ボーリング孔名	頁
H24-D1-1	10
H27-B-1	40
H27-B-2	79
H24-B14-2	123
H29-ReB14-2	165
H24-B14-1	179
H31-R-27'	221
H24-D1-3	230
H24-D1-2	249
H24-D1-4	261
H27-B-3	283
H27-B-4	332
H24-D1-5	371
H31-R-1	388



余白

■柱状図で用いている記号の凡例を以下に示す。

・岩級区分

割れ目の状態	コア形状	硬軟				
		A <sub>g</sub>	B <sub>g</sub>	C <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>	E <sub>g</sub>
a <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	B'	-	-	-	-
	II <sub>g</sub>	B'	C <sub>H</sub> '	-	-	-
	III <sub>g</sub>	-	C <sub>H</sub> '	-	-	-
	IV <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	V <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
b <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	B'	B'	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	II <sub>g</sub>	C <sub>H</sub> '	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	III <sub>g</sub>	C <sub>H</sub> '	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	IV <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	V <sub>g</sub>	-	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
c <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	-	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	II <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	III <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	IV <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	V <sub>g</sub>	-	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	D'	D'
d <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	II <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	III <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	IV <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	V <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	D'	D'

・硬軟

A <sub>g</sub>	極めて硬質。ハンマーで澄んだ金属音がする。
B <sub>g</sub>	硬質。ハンマーで金属音がする。
C <sub>g</sub>	中硬質。ハンマーで多少濁った音がする。
D <sub>g</sub>	軟質。ハンマーで濁音がする。
E <sub>g</sub>	極めて軟質。ハンマーで著しく濁った音がする。

・コア形状

I <sub>g</sub>	50cm以上の長柱状
II <sub>g</sub>	20cm以上50cm未満の長柱状
III <sub>g</sub>	10cm以上20cm未満の柱状
IV <sub>g</sub>	3cm以上10cm未満の岩片状～短柱状
V <sub>g</sub>	1cm以上3cm未満の岩片状
VI <sub>g</sub>	1cm未満の土砂状

・割れ目の状態

a <sub>g</sub>	密着, 新鮮
b <sub>g</sub>	酸化鉄付着
c <sub>g</sub>	細粒物質を挟む。
d <sub>g</sub>	割れ目として認識できない。




・風化

α	非常に新鮮である。造岩鉱物の変質はまったくない。
β	新鮮である。有色鉱物の周辺に赤褐色化がある。長石の変質はない。
γ	弱風化している。有色鉱物の酸化汚染がある。長石の部分的な変質(白色化)がある。
δ	風化している。有色鉱物が黄銅色あるいは周辺が褐色粘土化している。長石の大部分が変質している。
ε	強風化している。石英および一部の長石を除きほとんど変質し原岩組織は失われている。

・変質

1	非変質	肉眼的に変質鉱物の存在が認められないもの。
2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度(脱色)が低いもの。あるいは非変質部の割合が高いもの(肉眼で50%以上)。
3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判定できるが、原岩組織を明らかに残し、原岩判定が容易なもの。または、非変質部を残すものおよび網状変質部。
4	強変質	構成鉱物、岩片等が変質鉱物で完全置換され、原岩組織を全く～殆ど残さないもの。

・破砕度区分

区分	模様	詳細
Hc-1		粘土状部。 粘土及びシルトを主体とし、少量の砂及び礫を伴う。粘土化が進み全体に軟質化している。
Hc-2		礫混じり粘土状部。 粘土及びシルトの基質中に礫状ないしレンズ状の岩片を含む。基質及び礫は粘土化が進み軟質化している。
Hb		礫質粘土状部, 粘土質礫状部, 礫質砂状部。 礫を多く含み, 基質は粘土, シルト及び砂からなる。基質は粘土化が進み軟質化しているが, 礫は比較的新鮮で硬い。
Hj		粘土混じり礫状部, 粘土混じり岩片状部, 粘土質岩片状部, 砂混じり岩片状部。 粘土及びシルトを挟む割れ目が発達し, 全体に脆い。岩片は比較的新鮮で硬いものから, やや粘土化が進み指圧で砂状化するものまでである。網目状の粘土細脈が発達することがある。



余白

H24-D1-1

余白





標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														( N値~深度 ) 図																							
		13.00	10.25	砂礫	にぶい橙					10.25~11.00m: 中砂 10.25~10.40mは若干の粘土分を含む。 10.30~10.38mは傾斜45°程度で炭化物片を含み有機質である。暗緑灰色を呈する。 10.38m以深は径2~3mmの石英粒、径15~20mm以下の花崗斑岩の半クサリ〜クサリ礫を少量含み、よく締っている。10.53~10.55mに炭化物片を含む。																											
		12.47	11.00	中砂	にぶい黄橙					11.00~12.15m: 砂礫 径2~5mmの石英粒、径10~160mmの花崗斑岩の垂円〜亜角礫を多く含み、よく締った中〜粗粒砂の基質からなる。礫率は40~50%。 11.00~11.05mと11.20~11.27mの基質の一部はマンガン鉱染により黒褐色化する。																											
11		12.47	11.00	砂礫	にぶい黄橙					11.90~12.15mでは径10~20mmの半クサリ礫が主体となる。																											
		11.66	12.15	砂礫	にぶい黄橙					12.15~100.00m: 花崗斑岩 斑晶は径1~3mmの石英、長石からなる。 12.15~18.10m: 風化によって硬さは「D」または、著しく軟質化した「E」となり、深度18.10m付近まで硬さD (岩盤区分D) と硬さE (同D級) をくり返す。ただし、硬さ「E」が主体である。変質粘土化部や粘土脈の分布は少ない。割れ目沿いは風化で砂状化することが多い。割れ目沿いの一部は、マンガン鉱染により黒褐色化する。 全体に原岩組織と割れ目が残留する。傾斜10~30°の割れ目が主体で、一部でこれらに傾斜60~80°の割れ目が交差する。																											
12		11.66	12.15	花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg	Vg	cg	δ	3																											
13																																					
14						Bg	IVg			14.78~15.10m: 珪質のため硬質部として残留する。																											







標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
														(N)	値																	
26			花崗斑岩	明褐灰	Dg					25.05m: 傾斜35°の割れ目沿いに幅10~20mmが砂状化で一部粘土も含む。 25.12m: 傾斜40°の割れ目で交差する微細な割れ目は止まっている。周囲幅10mmに径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が露出する。また、割れ目に幅0.5mmの軟質な褐色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 25.33m: 傾斜36°で幅5~15mmが砂状化する。白色粘土が混じり、一部マンガン鉱染を受け黒色化する。	CL'																					
27				Eg						26.50m・22°と27.04m・35°の割れ目で囲まれた部分は、全体に軟質化が著しい。一部で幅0.5mmの軟質な白色粘土脈を伴う。原岩組織は残留する。	D'																					
28				にがい褐	Dg		Vg cg δ 3			27.21m: 傾斜34°の割れ目で交差する割れ目は止まっている場合と横断する場合がある。割れ目沿いに幅1~3mmが砂状化する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 27.43m: 傾斜20°程度で幅2~5mmの石英脈を挟む。 27.54~27.64m: 傾斜40°前後の割れ目沿いに風化が進み、著しく軟質化し、一部砂状を呈する。 27.81m: 傾斜32°の割れ目と交差する高角度割れ目が横断する。割れ目は幅1~2mmで砂状化する。割れ目に挟在物は伴わず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 27.81~27.98m: 幅0.5~2mmの軟質な白色粘土が長さ5~10cmで分布する。 28.14m・34°と28.23m・20°の割れ目で囲まれた部分は風化で著しく軟質化し砂状化~細片化する。一部でマンガン鉱染を伴う。28.14mに幅1~3mmの赤褐色粘土を挟む。	CL'																					
29				明褐灰	Dg					28.68m: 傾斜43°の割れ目で交差する割れ目は止まっている場合と横断する場合がある。下端側に幅1~2mmの石英脈を伴う。割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 28.76m: 傾斜44°の割れ目で交差する石英脈や割れ目が止まっている場合がある。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	CL'																					
				にがい褐	Eg					29.38~29.93m: 傾斜10~30°の割れ目沿いに風化で軟質化が著しくなり、割れ目周辺では砂状化する。	D'																					
				明褐灰	Dg						CL'																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記述	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
														( N ) 値	( 深度 )																				
31			花崗斑岩	明褐灰		Dg	Vg			30.12m: 傾斜35°の割れ目沿いに幅20~30mmが砂状~細片化する。 30.17~30.34m: 傾斜70~80°で湾曲した割れ目が分布し、割れ目を境にコアの上側は硬さ「C」とやや硬質である。																									
		30.53~31.54m: 傾斜30~50°の割れ目と低密着割れ目が主体で、一部は風化で消滅しかかり、不明瞭な部分もある。粘土脈や粘土化部は分布しないが、長石が粘土化し白濁化する。																																	
32		31.13m: 傾斜44°の割れ目の上端側は幅10~20mmが径5~10mmの花崗斑岩の岩片と硬質な砂状部からなる角礫状。下層側は硬質岩片からなり、岩片には傾斜44°の割れ目に對してほぼ直交する傾斜60°の割れ目が分布する。角礫状部は不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 31.54~31.94m: 傾斜40~50°の割れ目が主体で、これらは直線的でシャープに連続するものが多い。粘土の挟入はないが、割れ目沿いに薄く砂状化する。																																	
		32.14m: 傾斜42°で幅0.5~1mmの石英脈が母岩によく密着して連続する。 32.24m: 傾斜65°で幅8~20mmの開口割れ目。砂と径2~3mmの花崗斑岩の岩片が充填する。 32.38~34.03m: 傾斜10~30°の割れ目が主体で、幅30~100mmで砂状~細片化部を互層状に挟む。																																	
33			花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg																													
		33.83~33.97m: 径5~10mmの花崗斑岩の岩片と粘土化した差質からなる。																																	
34																													花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg			
		34.03~34.69m: 傾斜10~30°の割れ目が主体で、34.56mの傾斜40°の割れ目と交差する高角度割れ目には、止まっているものもあり、系統的なズレは見られない。一部では、割れ目沿いに風化で砂状化する。 34.47~34.69m: 白色化するが、粘土化はない。 34.82~34.95m: 傾斜20~30°の割れ目がほぼ平行に数条分布する。色調境界になっている場合が多い。割れ目にマンガが付着するが、細粒部は伴わない。34.82mの割れ目には幅10mm程度でマンガン濃集部を挟むが、マンガン濃集部内の粒子に定向配列はみられない。																																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	事	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 → cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験					原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
																( N 値 ~ 深度 ) 図																					
													0 50 100			0 10 20 30 40 50																					
					明黄褐	Dg							5 (0)																								
36					明褐灰	Cg							4 (0)																								
					明黄褐	Vg cg							4 (0)																								
37					明黄褐	Dg			δ	3			10 (10)																								
38					明褐灰	Eg Vlg dg							4 (0)																								
39					明褐灰	Cg Vg cg							5 (0)																								

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 月 日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図						原 位 置 試 験 ( 孔 内 水 平 監 視 )	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル / ビ ッ ト	給 回 転 数 (rpm) (kN・MPa)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)
														( N ) 値															
41			+	花崗斑岩	明褐灰		Vg	cg	Vg		40.08m・40°、40.14m・35°の各割れ目沿いに著しく軟質化する。 40.17~40.69m: 上下に比べ、割れ目は少なくなる。				0	10	20	30	40	50									
							Cg																						Ig
							Dg	Vg	cg	Vg		40.69~41.18m: 傾斜30~40°の割れ目主体で、一部は消滅しかかっている。割れ目沿いに砂状化する。一部の割れ目に幅1~2mmの軟質な白~淡褐色粘土を挟む。																	
							Eg	VIg					dg	cg	Vg		41.18~41.45m: ごく一部で割れ目は残留するが、大半は風化で消滅する。原岩組織は明確に残留するが、コア全体が著しく軟化する。												
Dg	Vg	cg	cg	Vg		41.45~42.23m: 傾斜30~40°の割れ目が主体で、割れ目沿いに砂状化し、一部では砂状部の幅が広がる。																							
42							+	花崗斑岩	明褐灰		Eg	VIg	dg	cg	Vg														
			Dg	Vg	cg	cg					Vg		41.86m: 傾斜42°の割れ目沿いに幅3cm程度で褐色が顕著である。幅2mm程度の砂状部を挟む。																
			Eg	VIg	dg									cg	Vg		42.23~42.50m: 幅1~3mmの軟質な白色粘土脈が網状に分布し、全体に軟質化が著しい。												
			Dg	Vg	cg	cg					Vg		42.27m: 傾斜42°で幅5~8mmの軟質な褐色粘土脈を挟む。粘土の境界は不明瞭で、下端側に注入する。粘土中の粒子の定向配列は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																
43			+	花崗斑岩	明褐灰			Eg	VIg	dg				cg	Vg														
						Dg		Vg	cg	cg	Vg		42.49m: 傾斜37°で幅1~2mmの軟質な白~褐色の粘土脈を不連続に挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																
						Eg		VIg	dg					cg	Vg		42.50~44.56m: 傾斜10~40°の割れ目や低密着割れ目が主体で、割れ目沿いに弱く風化し、一部に幅1~2mmの白~褐色の軟質な粘土を挟む。												
						Dg		Vg	cg	cg	Vg		43.15m: 傾斜15°の割れ目で高角度割れ目が止まっている。幅2mmの風化砂状部を挟む。																
44			+	花崗斑岩	明褐灰		Eg	VIg	dg					cg	Vg														
							Dg	Vg	cg	cg	Vg		43.20m: 傾斜36°の割れ目は他の割れ目を止めている。幅3mmの軟質な白~褐色粘土を挟む。高角度割れ目にも流入する。いずれの割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																
							Eg	VIg	dg					cg	Vg		43.74~44.56m: 傾斜10~40°の割れ目と、これに斜交~直交する60~90°の割れ目が分布し、径10~20mmに岩片化する。割れ目沿いに砂状化することが多い。												
							Dg	Vg	cg	cg	Vg		44.05m・10°と44.08m・10°ないし75°の割れ目で囲まれた部分は、砂状~径5~10mmの細岩片状を呈する。粘土化はない。																
44			+	花崗斑岩	明褐灰		Eg	VIg	dg					cg	Vg														
							Dg	Vg	cg	cg	Vg		44.41~44.43m: 珓質部で、硬質岩片として残留する。																
Dg	Vg	cg	cg	Vg		44.56~45.91m: 傾斜20~40°と60~80°の割れ目が交差し、径5~10mmの岩片状と岩片間の砂状部の基質からなる。基質はやや粘土化が進み、全体は著しく軟質化する。																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)														
														( N値~深度 ) 図																													
														0 10 20 30 40 50																													
46				にぶい橙						45.10~45.56m: 割れ目が明瞭に残留する。 45.27m: 傾斜48°の割れ目と交差する割れ目は止まっている。幅3~4mmの不連続で軟質な白色粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 45.60m: 傾斜70°の連続した割れ目に幅2~3mmの軟質な白~明赤灰色粘土脈を挟む。明赤灰色粘土は不連続である。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 ●45.91~48.28m: 破砕部 45.91~45.94m: 粘土質凝状部 (Hb) 上端52°, 下端35° ともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5mmで粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅30mm。 45.94~46.41m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端35°, 下端15° ともに直線的でシャープに連続。径10mm前後の岩片間を幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が網目状に分布する。淡黄褐色を呈する。 46.41~46.45m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 上端15° で直線的にシャープに。下端20° でやや波打ちながら連続。径1~3mmと少量の径5mmで粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。やや硬質。淡黄褐色を呈する。幅25~30mm。 46.45~47.64m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端20°, 下端20° ともにやや波打ちながら連続。径5~20mmの岩組織がほぼ消滅した花崗斑岩の岩片と岩片間を縫うように網状に分布する幅1~2mmの白色軟質粘土脈及び46.80mでは幅8mm、57°の灰黄褐色粘土などからなる。明黄褐色を呈する。46.77~46.79mのほぼ水平に分布する暗褐色の細粒部については、コア掘削時のコアの供回りによるものである。 47.64~47.65m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 上端20° でやや波打ちながら。下端10° で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒と少量の粘土化した径5mmの花崗斑岩の岩片を含む。やや軟質。明赤灰色を呈する。幅10~15mm。 47.65~48.18m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端10°, 下端34° ともに直線的でシャープに連続。一部で岩組織が残留。一部で消滅した径5~20mmの花崗斑岩の岩片と岩片間を網状に分布する幅1~2mmの白色軟質粘土脈からなる。明赤灰~明褐色を呈する。 48.18~48.26m: 粘土質凝状部 (Hb) 上端34°, 下端68° ともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と下部部に硬質岩片を残すが、これ以外は粘土化した径5mm前後の花崗斑岩の岩片からなる。やや硬質。灰白~明黄褐色を呈する。幅40~70mm。 48.26~48.28m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 上端68°, 下端68° ともに直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。やや硬質。明黄褐色を呈する。幅6~8mm。下端の灰白色の細粒部は不連続である。 48.28~48.67m: 原岩組織が残留した径10~20mmの岩片からなり。一部、岩片間に幅1~2mmの軟質な白色粘土が分布するが、連続性は悪く短い。風化で割れ目は消滅しかかったものが多い。 48.67~49.20m: 原岩組織は残留するが、割れ目は消滅する。 ●49.20~49.91m: 破砕部 49.20~49.82m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端不明瞭。下端44° で直線的でシャープに連続。径10~30mmの岩組織が残留する岩片と。岩片間を幅1~3mmで網状に分布する白色粘土脈からなる。明褐色を呈する。 49.82~49.94m: 粘土状部 (Hc-1) 上端44° で直線的にシャープに。下端43° でやや波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅10mm。 49.84~49.91m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端43° でやや波打ちながら連続。下端30° でやや不明瞭である。岩組織が消滅したものが大半の径2~20mmの花崗斑岩の岩片と岩片間の一部が軟質で白色粘土化する。明褐色を呈する。幅10mm。 49.91~50.77m: 一部で径10~50mmの原岩組織と割れ目が残留するやや軟質な岩片を含むが、著しく軟質化したものが主体である。傾斜60~70°とこれに斜交する30~60°の割れ目が主体で、割れ目沿いや岩片間の一部が軟質な白色粘土化する。	0 50 100																																
47				明黄褐																																							
48				花崗斑岩																																							
49				明褐灰																																							

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 区 分	岩 種 調	色 調	硬 軟 状 態	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 → ( % ) 最大コア長 → cm R Q D L [ % ]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 ( m ) 測 定 日 付	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図		原 位 置 試 験 ( 孔内水平載荷 )	室 内 試 験	掘 進 日 時	掘 進 速 度 ( cm / 時 )	孔 径 ( mm ) / 孔壁保護	コ ア チ ュー プ / ペ ット	給 回 転 数 ( rpm ) / 圧 ( kN・MPa )	送 水 圧 ( MPa )	排 水 量 ( L / 分 )	
														N	値										
	51		花崗斑岩	明褐色		Eg	VIg	dg		50.70~50.77m : 上端50°、下端65° とともに直線的にシャープに連続。 下端の一部には幅1~3mmの軟質な白 ~灰赤色粘土脈を伴う。径5~10mmの 粘土化した花崗斑岩の岩片が主体で、 岩片間には幅1~2mmの白~灰黄色の 軟質な粘土が分布する。粘土混じり岩 片状を呈する変質部である。明褐色 色を呈し、幅は30~70mmと膨縮する。 50.77~51.69m : 径5~10mmの岩片と 粘土化した基質からなる。基質の一 部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が 短く分布する。 50.80~50.88m : 褐色化が顕著である。	D'														
	52			にぶい橙		Dg	VIg	cg		51.12~51.24m : 傾斜約40°で珪質部 が硬質で残留する。傾斜40°の割れ 目が約10mm間隔で発達する。 51.69~52.20m : 傾斜50~60°と、こ れに斜交する傾斜30~40°の割れ目 が見られる。	CL'														
	53		花崗斑岩	灰褐色				δ 3		52.20~53.77m : 著しく軟質化した径 5~20mmの岩片からなり、原岩組織は ほぼ消滅する。部分的に岩片間に幅1 ~3mmの軟質な白色粘土脈が分布する。 ●53.77~54.54m : 破砕部 53.77~53.78m : 粘土質礫状部 (Hb) 上端65°、下端65°とともに直線的 に連続。径1~8mmの石英粒や花崗斑 岩の岩片主体で基質は黒褐色粘土か らなる。黒褐色を呈する。幅5~10mm 。53.78~53.80m : 粘土状部 (Ho-1) 上端65°、下端65°とともに直線的 にシャープに連続。軟質。灰褐色を 呈する。幅5~10mm。 53.80~53.90m : 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端65°で直線的にシャープに、下 端20°でやや波打って連続。径1~4m の石英粒と径10mm前後の粘土化した 岩片を主体とし、岩片間の一部に白 色粘土を伴う。灰褐色を呈する。幅1 00~160mm。 53.90~53.93m : 礫混じり粘土状部 (Ho-2) 上端20°でやや波打って、下端25° で直線的にシャープに連続。ごく少 量の径1~2mmの石英粒と径10mm程度 の粘土化した扁平なレンズ状の花崗斑 岩の岩片を含む。やや硬質。浅黄橙 色を呈する。幅25~30mmで膨縮する。 53.93~54.06m : 粘土質礫状部 (Hb) 上端25°、下端60°とともに直線的 にシャープに連続。径1~5mmの石英 粒と径5~10mmの粘土化した扁平なレ ンズ状の花崗斑岩の岩片を多く含む。 にぶい黄橙色を呈する。幅100~160m m。 54.06~54.07m : 粘土状部 (Ho-1) 上端60°で直線的にシャープに、下 端64°で大きく波打ちながら連続。 径1~2mmの石英粒を含み、岩片は含 まない。やや硬質。浅黄橙色を呈す る。幅5~15mmで膨縮する。 54.07~54.45m : 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端64°で大きく波打ちながら、下 端46°でほぼ直線的にシャープに連 続し、下端では幅1~2mmの白色軟質 粘土を伴う。全体が粘土化で著しく 軟質化しており、岩片境界はほとん どが不明瞭。54.35~54.40m間では径 1~4mmの石英粒が30~35°で配列す る。54.38~54.45mはマンガン鉱染を 受け、灰黄褐色を呈する。全体は灰 黄~灰黄褐色を呈する。幅190mm (60° )。 54.45~54.54m : 礫質砂状部 (Hb) 上端46°、下端55°とともに直線的 にシャープに連続。径1~3mmの石英 粒と径5~10mmの粘土化した岩片を多 く含む。やや硬質。浅黄色を呈する。 幅60~70mm。 54.54~56.11m : 径5~10mmの大型な 石英斑晶を多く含む。全体に珪質で ある。傾斜60~70°とこれに交差す る傾斜40~60°の割れ目が主体で、 割れ目沿いに砂状~細片化する部分 がある。	D'														
	54		にぶい黄橙		Cg	VIg	cg				CL'														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
																( N値~深度 ) 図																			
																0 10 20 30 40 50																			
56				花崗斑岩																															
57																																			
58																																			
59																																			

標高 度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	硬軟 状	割れ 目の 状態	風化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級 区分	孔内水位 (m) 測定日	(標準貫入) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験 掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コア チップ ノズル	給 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)
											0	10	20	30	40									
61	[Pattern]	明褐灰		Eg Vlg dg			●60.12~60.15m: 破砕部 (G断層) 60.12~60.13m: 粘土状部 (Ho-I) 上端40° でほぼ直線的にシャープに、 下端40° で波打って連続。上端に幅1 mmの明赤灰色粘土を伴う。径1~2mm の石英粒と径5mmの粘土化した花崗斑 岩の岩片をわずかに含む。軟質。灰 白色を呈する。幅1~10mmと膨縮する。 60.13~60.15m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端40°、下端45° ともに波打つ て連続。下端に幅1mmの明赤灰色粘土 を伴う。径5~10mmの花崗斑岩の岩片 主体で岩片間に幅0.5mmの灰白色粘土 を伴う。にぶい黄色を呈する。幅5~ 30mm。 60.15~60.34m: 著しく軟質化し、割 れ目はほぼ消滅するが、原岩組織は 残留する。所々、幅1~2mmの軟質な 白色粘土脈が分布する。60.46mには 傾斜60° の消えかかった割れ目沿い に幅10mm程度がマンガン鉱染を受け 黒褐色化する。 60.34~62.64m: 傾斜40~60° の割れ 目とこれに斜交~直交する30~60° の割れ目が主体で、割れ目沿いは薄 く砂状化するものが多い。軟質な粘 土脈は分布しない。 61.49~61.52m: 不規則な形状で礫混 じり粘土状部を伴う。マンガン汚染 を受けて黒褐色を呈する。 61.76~61.80m: 径2~10mmの角礫と 粘土基質で、基質はマンガン鉱染を 受け黒化する。上下端は凹凸があり、 直線的なシャープさはない。	0	D'															
				62				Dg Vg	6															
								Cg Iv Cg	63	cg	2	CL'												
Dg	63.00~63.39m: 傾斜40~60° とこれ に斜交~直交する20~30° の割れ目 が主体で、粘土脈は分布しない。割 れ目沿いは薄く砂状化する。 63.39~65.69m: 互いに斜交~直交す る傾斜40~60° の割れ目が主体で、 65.44m以下では風化も弱くなり、割れ 目沿いの薄い砂状化も認められなく なる。粘土脈は殆んど分布せず質 も弱い。	5																						
64	[Pattern]	灰褐	Vg				10																	
			Cg																					



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図		原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ベット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
														N	(N) 値																		
		66	花崗斑岩	灰褐色				cg δ	2	65.69~67.43m: 上位に比べ割れ目は少ない。風化は66.49m以浅では割れ目の面がごく薄く風化褐色化する程度で、66.49m以深では割れ目周辺まで風化が進み淡褐色化する。粘土化部や粘土脈がわずかに分布する。傾斜20~40°とこれに斜交~直交する50~70°の割れ目が主体で、割れ目の一部はマンガン鉱染を受け、面は黒褐色化するが、軟質化は伴わない。 66.10~66.65m: 傾斜2~5mmの白濁した長石斑晶が多く分布する。	CL'																						
		67		にんじ黄橙					cg δ	2	67.08~67.22m: 径5~10mmの大型な石英斑晶が多く分布する。	CM'																					
		68		花崗斑岩					cg δ	2	67.43~67.70m: 上位よりも割れ目や低密着割れ目が多くなる。 67.55m: 傾斜65°で幅0.5mmの軟質な白色粘土脈を挟む。 67.70~68.32m: 傾斜40~50°の互いに交差する割れ目が主体で、一部に幅0.5~1mmの浅黄色粘土脈を挟む。 67.78~67.95m: 上下傾60°の割れ目に挟まれて、やや軟質化するが、粘土化は伴わない。	CL'																					
		69		灰褐色					cg δ	3	68.32~68.52m: 軟質化が著しく、幅1~3mmの軟質な灰白~灰赤色粘土脈が網状に分布する。 68.52m: 傾斜70°で幅2~5mmの軟質な白~明黄色粘土脈を挟む割れ目、やや波打って連続性・直線性に乏しい。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。 68.52~68.84m: 全体に粘土化が進み軟質化が著しい。白色粘土が網目状に分布する。 ●68.84~69.00m: 破砕部 68.84~68.93m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端50°で不明瞭。下端55°でやや波打って連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体。明灰褐色~灰白色を呈する。幅32mm。 68.93~68.95m: 粘土質線状部 (Hb) 上端55°、下端50°でともにやや波打って連続。径5~18mmの粘土化した岩片を多く含む。やや硬質。石英は殆んど含まない。上下端は幅1~4mmでマンガン鉱染を受け灰黄褐色化。これ以外は灰白色を呈する。幅20~30mm。 68.95~69.00m: 粘土混じり岩片状部 (Hj)	D'																					
				花崗斑岩					cg δ	2	上端50°、下端45°でともにやや波打って連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体。下端は幅2mmの硬質な淡褐色粘土脈を伴う。灰褐色を呈する。幅32~35mm。 69.00~69.73m: 大半の割れ目は消滅するが、69.42mに傾斜68°、69.67mに傾斜70°で直線的でシャープな割れ目が残留する。 69.06~69.18m: 傾斜60~80°で幅2~8mmの灰赤色粘土脈が湾曲しながら連続する。 69.73~71.21m: 大半の割れ目が残留し、傾斜10~30°と、これに斜交~直交する50~80°の割れ目が主体で、割れ目沿いに薄く砂状化することが多い。 69.89m・50°の割れ目は面の凹凸が著しいが、そのかみ合わせは良い。69.97m・65°の割れ目は交差する割れ目を止めている。両者とも挟み物はなく、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	CL'																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位(m) / 測定月日	標準貫入 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
															0	10	20	30	40												50											
71			花崗斑岩	灰褐		Dg	Vg	cg	2		70.10~70.40m: 割れ目はほぼ消滅する。粘土脈の分布は少ない。	0	CL'																													
																			71.21~71.35m: 著しく軟質化し、割れ目はほぼ消滅するが、原岩組織は大半が残留する。幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が傾斜40~60°で平行に分布する。上端側はマンガン鉱染で黒褐色化する。	0																						
72																			71.35~74.20m: 傾斜20~40°と、これに斜交~直交する傾斜40~70°の割れ目が主体で、一部は、割れ目沿いに薄く砂状化~径5mmに細片化する。粘土脈の分布は少ないが、73.40m以深では、割れ目の一部に幅1~8mmで軟質な灰白~白色粘土脈を挟む。	0																						
73			花崗斑岩	灰褐		Dg	Vg	cg	2	6		0	D'																													
74			花崗斑岩	にがい黄橙		Eg	Vg	dg	3		74.04m以深では傾斜40°の割れ目沿いに幅10~40mmで径5mm前後の細片状を呈する。岩片間の一部に径10mm前後の斑点状に白色粘土化部を伴う。	0																														
																		74.28~75.50m: 著しく軟質化し、幅1~5mmの軟質な白~灰赤色粘土脈が傾斜50~80°で多数分布する。大半の粘土脈は湾曲したり波打ったりしてシャープな直線性は示さない。74.48mの傾斜55°の割れ目には幅0~4mmの軟質な灰赤色粘土を不連続に挟む。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。	0																							
											74.70~75.50m: 傾斜80°以上の高角度割れ目が多く、灰白色粘土を伴う。	0																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	記	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																			
													( N 値 ~ 深度 ) 図	( N 値 )																														
		76	花崗斑岩	に多い黄褐色	Eg	VIg	dg			75.10~75.50m: 幅1~5mmの軟質な白色粘土脈が網状に分布する。	0	D'	0 10 20 30 40 50																															
		77								Dg			3	75.50~77.75m: やや硬質な岩片も多く含む。傾斜10~30°が主体で、これらと斜交~直交する傾斜50~70°の割れ目と低密度割れ目が分布する。割れ目の一部は砂状化し、一部には幅1mm前後の軟質な白色粘土脈を挟む。粘土化で白濁した径2~5mmの長石斑晶が多い。												0	CL'																	
		78								Vg				cg														77.10~77.25m: 全体に軟質化し、一部で軟質な白色粘土が径2~3mmの斑点状~幅1mmの脈状で分布する。77.25~77.75m: 割れ目に幅1mmの軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。	0														D'	
		79								Cg			2	77.75~78.77m: 径10mm前後の硬さ「D」ないし「C」の岩片を含むが、全体には著しく軟質化する。原岩組織は一部で残留するが、割れ目はほぼ消滅する。78.20~78.40m、78.70~78.77mに径5~10mmの硬さ「C」ないし「D」の岩片が残留し、傾斜10~30°と60~70°の消滅しかかった割れ目がわずかに残留するが、残留する岩片間には幅1~2mmの軟質な白色粘土が脈状に分布するが、直線的でシャープなもの、78.48mの傾斜63°で幅1mmの粘土脈のみである。												0	CL'																	
										Eg				VIg														dg	●78.77~79.19m: 破碎部粘土質凝結部 (Hj) 上端32°でやや湾曲して、下端63°で直線的にシャープに連続。岩組織は明瞭であるが、割れ目は78.97mの54°以外は消滅する。全体に変質しており、著しく軟質化する。79.15mに深に幅1~3mmの約60°で軟質な灰赤色粘土脈を3箇所伴う。灰褐色~明青灰色を呈する。														0	
			Cg	Vg	cg	79.25~79.85m: 傾斜10~30°と60~70°の割れ目が約10mm間隔で細かく分布し、径10mm程度の岩片に分離し易い。一部で幅0.5mmの白色粘土が付着する。	0	CL'																																				
			Eg	VIg	dg	79.85m: 傾斜50°で幅2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。79.85~80.08m: 全体に著しく軟質化し、幅1~3mmの軟質な白色粘土が網状に分布する。			0	CL'																																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																								
															0	10	20	30	40												50																							
81			花崗斑岩	灰褐色	Eg	Vg	dg		3	80.08~81.00m: 互いに交差する傾斜40~60°の割れ目が多く、径5~20mmの岩片からなる。割れ目の一部は薄く砂状化したり、径5mmの岩片に細片化する。一部の割れ目には白~にぶい橙色の軟質な粘土脈を挟む。	0 50 100				0 10 20 30 40 50																																							
				にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg		δ	80.80~80.90m: 径3~5mmの粘土化で白濁化した長石斑晶が多い。																																												
																																					81.00~81.20m: 径10~20mmの硬さ「D」の岩片と砂状に軟質化した岩片からなる。基質中に幅1~3mmの軟質な白色粘土脈を挟む。 ●81.20~81.42m: 破砕部 81.20~81.30m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端40°で一部湾曲し、下端35°で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径3~15mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。やや硬質。 81.20~81.27m: にぶい黄褐色。81.27~81.30m: 浅黄褐色を呈する。幅50~50mm。 81.30m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜35°で径2~4mmの軟質な灰赤色粘土からなる。 81.30~81.42m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端35°で直線的にシャープに、下端60°でやや湾曲して連続し、灰赤~白色の幅1mmの軟質粘土を伴う。径1~3mmの石英粒と径5~20mmの一部粘土化、一部硬さDの花崗斑岩の岩片を多く含む。81.37m以深では硬質が増加する。上端幅10mmは淡赤褐色で、これ以外はにぶい黄褐色を呈する。 81.42~82.88m: 傾斜50~70°の割れ目や低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する30~70°の割れ目が分布するが、この割れ目は連続性が悪く、途中で消滅するものが多い。割れ目の一部に幅0.5~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。 81.42~81.58m、82.27~82.88m: 割れ目沿いにマンガン鉱染を受け黒褐色化する。 82.45m: 傾斜70°の割れ目で、これにはほぼ直交する割れ目は止まっている。割れ目には幅0~2mmの軟質な白色粘土を不連続に挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 82.88~83.92m: 径5~8mmの大型の粘土化で白濁した長石斑晶が多く分布する。また、石英斑晶も径5~10mmで大型化する。粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。傾斜40~70°の割れ目が主体で、一部の割れ目沿いに径2~10mm程度の岩片に細片化するが、砂や粘土は挟まない。 83.92~87.14m: 傾斜30~60°の割れ目と、これらに斜交~直交する30~70°の割れ目を主体とする。同傾斜の低密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部では薄く砂状化する部分があるが、粘土化部は分布せず、粘土脈を挟む割れ目も少ない。径3~10mmの粘土化で白濁した長石斑晶が目立つ。割れ目の一部はマンガン鉱染でごく薄く黒褐色化し、コア表面の一部もマンガン鉱染により径2~5mmの斑点状に黒褐色化する。																	
82																																																						
83				灰褐色	IVg																																																	
84					Cg		bg	γ	2																																													



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	標準貫入試験 (N値~深度) 図	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																													
																								コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日																									
91				花崗斑岩	灰褐	Dg	Vg	cg	2		90.00~90.26m: 傾斜30~50°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目が分布し、径5~50mmの硬さ「C」の岩片を呈することが多い。 ●90.26~90.84m: 破砕部	0 50 100																																								
																										CL'																										
																										灰白	Eg	VIg	dg	3	90.26~90.31m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端50°で波打ち、下端70°で直線的にシャープに連続。径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片と岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈が分布する。にぶい黄褐色を呈する。幅15~20mm。 90.31~90.37m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端70°、下端70°でともにほぼ直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒とほぼ粘土化した径5~10mmの花崗斑岩の岩片を多く含む。やや軟質。上端には幅1~2mmの灰赤色軟質粘土脈を伴う。灰白色主体で連続に灰赤色を呈する。幅20~35mm。 90.37~90.66m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端70°、下端75°でともにほぼ直線的にシャープに連続。ほぼ粘土化した岩組織を消滅した径5~30mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間を幅0.5~1mmの軟質な白~灰赤色粘土脈が分布する。にぶい黄褐色~灰白色を呈する。	0 50 100																				
																																																	D'			
																										灰褐	Cg	Vg		2	90.66m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜75°で幅2mmの軟質赤灰色粘土で、直線的にシャープに連続する。 90.66~90.72m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端75°で直線的にシャープに、下端60°で波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒、長石粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅6~20mmと縮する。 90.72~90.84m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端60°で波打って、下端50°でほぼ直線的にシャープに連続。径5~20mmの一部硬質礫が残留するが、概ね粘土化した花崗斑岩の岩片と径2~3mmの石英粒、長石粒、花崗斑岩の細岩片を含む基質からなる。にぶい黄褐色を呈する。	0 50 100																				
																																																		CL'		
																										灰褐	Eg	VIg	dg	6	90.84~91.26m: 傾斜60~70°の割れ目が20~40mm間隔で平行に分布する。これらの割れ目に斜交~直交する傾斜40~50°の割れ目も多い。91.21m付近では、前者は後者を止めている場合と横断する場合が見られる。割れ目の一部には断片的に幅0.5mmの軟質な白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 ●91.26~91.52m: 破砕部 91.26~91.31m: 粘土混じり礫状部 (H) 上端60°で直線的にシャープに、下端63°で湾曲して連続。径1~3mmの石英、径5~10mmの花崗斑岩の粘土化岩片からなり、幅1mmの白色粘土脈を挟む。やや軟質。にぶい黄褐色を呈する。幅20~40mm。 91.31~91.33m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端63°で湾曲し、下端63°で波打って連続。径1~2mmの石英粒と径5~20mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。赤灰色を呈する。幅0~15mmと縮する。 91.33~91.52m: 粘土混じり (一部粘土質) 岩片状部 (H) 上端63°で波打ち、下端30°で不明瞭に連続。粘土化した、または硬質な径5~10mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間には白~灰赤色軟質粘土が分布する。にぶい黄褐色~明赤灰色を呈する。	0 50 100																				
																																																			D'	
																										灰褐	Cg	Vg		3	91.52~92.00m: 硬さ「D」ないし「C」の径10~30mmの岩片と岩片間の風化砂の基質からなる。傾斜20~30°の割れ目が主体であるが、殆んどが消滅しかつている。基質の一部に幅1~3mmの軟質な白色粘土が脈状に分布する。91.94~92.00mは掘削時の攪乱により、径5~10mmに砕けている。	0 50 100																				
																																																		D'		
																										92				花崗斑岩	褐灰	Eg	VIg	dg	6	90.66m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜75°で幅2mmの軟質赤灰色粘土で、直線的にシャープに連続する。 90.66~90.72m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端75°で直線的にシャープに、下端60°で波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒、長石粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅6~20mmと縮する。 90.72~90.84m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端60°で波打って、下端50°でほぼ直線的にシャープに連続。径5~20mmの一部硬質礫が残留するが、概ね粘土化した花崗斑岩の岩片と径2~3mmの石英粒、長石粒、花崗斑岩の細岩片を含む基質からなる。にぶい黄褐色を呈する。	0 50 100															
93				花崗斑岩	灰褐	Cg	Vg		2	90.84~91.26m: 傾斜60~70°の割れ目が20~40mm間隔で平行に分布する。これらの割れ目に斜交~直交する傾斜40~50°の割れ目も多い。91.21m付近では、前者は後者を止めている場合と横断する場合が見られる。割れ目の一部には断片的に幅0.5mmの軟質な白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 ●91.26~91.52m: 破砕部 91.26~91.31m: 粘土混じり礫状部 (H) 上端60°で直線的にシャープに、下端63°で湾曲して連続。径1~3mmの石英、径5~10mmの花崗斑岩の粘土化岩片からなり、幅1mmの白色粘土脈を挟む。やや軟質。にぶい黄褐色を呈する。幅20~40mm。 91.31~91.33m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端63°で湾曲し、下端63°で波打って連続。径1~2mmの石英粒と径5~20mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。赤灰色を呈する。幅0~15mmと縮する。 91.33~91.52m: 粘土混じり (一部粘土質) 岩片状部 (H) 上端63°で波打ち、下端30°で不明瞭に連続。粘土化した、または硬質な径5~10mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間には白~灰赤色軟質粘土が分布する。にぶい黄褐色~明赤灰色を呈する。	0 50 100																																									
																												D'																								
94				花崗斑岩	灰褐	Eg	VIg	dg	3	91.52~92.00m: 硬さ「D」ないし「C」の径10~30mmの岩片と岩片間の風化砂の基質からなる。傾斜20~30°の割れ目が主体であるが、殆んどが消滅しかつている。基質の一部に幅1~3mmの軟質な白色粘土が脈状に分布する。91.94~92.00mは掘削時の攪乱により、径5~10mmに砕けている。	0 50 100																																									
																									D'																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ( % ) 最大コア長 cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水平載荷 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ピット	給圧 (kN・rMPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																	
															N	(m)	(N)	(m)	(N)																												
91				花崗斑岩	灰褐	D <sub>g</sub> V <sub>g</sub> cg	V <sub>g</sub>	cg	2			92.00~92.15m: 上位より岩片は細片化し、径5~10mmの岩片が主体で粘土化することが多い。岩片間を幅1~3mmの軟質な白色粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。 92.15m以深では更に粘土化が進み、傾斜5°で幅40mmで軟質な硬質粘土状を呈する。全体ににぶい黄褐色を呈する。 92.19~92.94m: 92.48~92.66mを除き、原岩組織と割れ目はほぼ消滅し、著しく軟質化する。幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を伴う。 92.31~92.41m: コア掘削時の供回りによる攪乱で粘土化する。 92.48~92.66m: 傾斜30~40°とこれに斜交する60~70°の割れ目の一部が残留し、その一部に軟質な白色粘土を挟む。 92.94~93.12m: 傾斜10~20°とこれに斜交する40~60°の割れ目分布する。割れ目の一部に幅0.5mmの軟質な白色粘土を挟む。また、一部の割れ目は薄く砂状化する。 ●93.12~93.24m: 破砕部 93.12~93.20m: 粘土混じり礫状部 (Hb) 上端65° 下端30°とともに直線的に連続する。径1~3mmの石英粒、粘土化した径5~10mmの花崗斑岩の岩片主体で岩片間に幅1mmの白色粘土を挟む。やや軟質~やや硬質。にぶい黄褐色を呈する。幅50~100mmと膨らむ。 93.20m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜30°で幅2mmのやや軟質な灰赤色粘土からなる。ほぼ直線的に連続する。 93.20~93.24m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端30°、下端55°とともに直線的に連続する。径1~2mmの石英粒、粘土化した径5~10mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間に幅1mmの白色粘土を挟む。やや軟質~やや硬質。にぶい黄褐色を呈する。幅30mm。 93.24~93.43m: 硬さ「C」ないし「D」の岩片が残留するが、岩片間の基質は著しく軟質化する。基質中には幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が多く分布する。 93.41~93.43m: 一部は軟質な白色粘土化部となる。 93.43~94.40m: 94.00~94.14mは風化により不規則な形状で著しく軟質化するが、これ以外はやや硬質である。割れ目沿いに幅0.5~5mmの軟質な白色粘土脈を挟む。特に、94.14m以深では、傾斜70~80°の粘土脈が多数分布する。傾斜10~30°と70~80°の割れ目が主体で、上記の粘土脈のほか、割れ目の一部は風化で薄く砂状化する。 94.40~95.23m: 著しく軟質化し、一部で硬さ「C」、 「D」の径10~30mmの岩片を含む。94.76m・55°と95.07m・65°の割れ目は直線的でシャープに連続する。前者は幅0~2mmの軟質な白色粘土を不連続に伴い、後者は幅1~2mmの軟質な灰赤色粘土を連続的に伴う。両者とも面を境として変質の程度が異なる。いずれの割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。																																			
						灰白							E <sub>g</sub> VI <sub>g</sub> dg	VI <sub>g</sub>	dg	3				D'																											
					C <sub>g</sub> V <sub>g</sub>		V <sub>g</sub>	2			CL'																																				
					灰褐	E <sub>g</sub> VI <sub>g</sub> cg							VI <sub>g</sub>	cg	2				D'																												
						C <sub>g</sub> V <sub>g</sub>	V <sub>g</sub>	3			CL'																																				
					褐灰	E <sub>g</sub> VI <sub>g</sub> dg							VI <sub>g</sub>	dg	6				D'																												
						C <sub>g</sub> V <sub>g</sub>	V <sub>g</sub>	2			D'																																				
					灰褐	E <sub>g</sub> VI <sub>g</sub> dg							VI <sub>g</sub>	dg	3				CL'																												
						C <sub>g</sub> V <sub>g</sub>	V <sub>g</sub>	3			D'																																				
					灰褐	E <sub>g</sub> VI <sub>g</sub> dg							VI <sub>g</sub>	dg	3				CL'																												
C <sub>g</sub> V <sub>g</sub>	V <sub>g</sub>	3				D'																																									
灰褐					E <sub>g</sub> VI <sub>g</sub> dg		VI <sub>g</sub>	dg	3				CL'																																		
	C <sub>g</sub> V <sub>g</sub>	V <sub>g</sub>	3			D'																																									
灰褐	E <sub>g</sub> VI <sub>g</sub> dg						VI <sub>g</sub>	dg	3				CL'																																		
	C <sub>g</sub> V <sub>g</sub>	V <sub>g</sub>	3			D'																																									
灰褐	E <sub>g</sub> VI <sub>g</sub> dg						VI <sub>g</sub>	dg	3				CL'																																		
	C <sub>g</sub> V <sub>g</sub>	V <sub>g</sub>	3			D'																																									
灰褐	E <sub>g</sub> VI <sub>g</sub> dg						VI <sub>g</sub>	dg	3				CL'																																		
	C <sub>g</sub> V <sub>g</sub>	V <sub>g</sub>	3			D'																																									

標高 (m)	深度 (m)	柱状	岩種	色	硬軟	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 化 質	変 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測定 月 日	(標準貫入) 試験					原 位 置 置 試 験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) /孔壁保護	コ ア チ ュ ー リ ノ ビ ェ ッ ト	給 回 送 水 圧 数 (rpm)	送 水 量 (MPa)	排 水 量 (L/分)								
														(N値~深度) 図	( N ) 値	( )	( )	( )																	
96	50.46	100.00								<p>95.07~95.14m: 粘土化が進み, 上下位よりも粘土量が多い。</p> <p>95.23~99.46m: 97.90~98.70m間が変質で軟質化する以外は, やや硬質である。傾斜20~50°の割れ目が主体で, これらに斜交~直交する30~50°の割れ目も分布する。</p> <p>96.28~96.48m: 各割れ目沿いに砂状化し, 割れ目に幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。</p> <p>97.80~98.70m: 割れ目沿いに砂状化し, 幅0.5~1mmの軟質な白~灰赤色粘土脈を挟む。 97.83m: 傾斜60°の割れ目で, 同系統の割れ目には横断する割れ目も見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。</p> <p>98.37m: 傾斜45°の割れ目で, これと横断する割れ目と止まっている割れ目が見られる。割れ目を境に上下端の変質の程度が異なる。割れ目に粘土脈は挟まない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 98.44m: 傾斜30°の割れ目を境に変質の程度が異なる。割れ目には幅2~5mmで膨縮する軟質な赤灰色粘土脈を挟む。この割れ目とほぼ直交する割れ目が見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。</p> <p>99.46~99.68m: 傾斜50~60°の割れ目が平行に分布する。割れ目沿いに変質が進み砂状化し, 幅0.5~1mmの白~にぶい黄褐色の粘土脈を挟む。 ●99.68~99.71m: 破砕部 99.68~99.69m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端65°, 下端63°でともにほぼ直線状でシャープに連続。径1~2mmの石英粒, 粘土化した径3~5mmの花崗斑岩の岩片からなり, 岩片間に幅1mm以下の白色粘土を挟む。やや軟質。灰赤~にぶい黄褐色を呈する。上端側の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。幅3mm。 99.69~99.71m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端63°, 下端65°でともにほぼ直線状でシャープに連続。径1~2mmの石英粒, 粘土化した径5mm前後の花崗斑岩の岩片を15%含む。やや軟質。灰赤~にぶい黄褐色を呈する。幅12mm。 99.71~100.00m: 傾斜50~70°と, これらに斜交~直交する30~40°の割れ目や低密着割れ目が分布する。各割れ目, 低密着割れ目とも粘土脈は挟まない。 99.91m: 傾斜52°の割れ目は, 直線的にシャープに連続し, 交差する割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められず, 割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ, 系統的な割れ目も存在しない。</p>	<p>0 50 100</p> <p>5 (0) 100</p> <p>5 (0) 100</p> <p>3 (0) 100</p> <p>4 (0) 100</p> <p>5 (0) 100</p>	D'																							
97			花崗斑岩																																
98																																			
99																																			



孔番 D1-1 孔

深度 0.00m ~ 18.00m

孔口標高 20.25m



孔番 D1-1 孔

深度 18.00m ~ 36.00m

孔口標高 20.25m



孔番 D1-1 孔

深度 36.00m ~ 54.00m

孔口標高 20.25m



孔番 D1-1 孔

深度 54.00m ~ 72.00m

孔口標高 20.25m



孔番 D1-1 孔

深度 72.00m ~ 90.00m

孔口標高 20.25m



孔番 D1-1 孔

深度 90.00m ~ 100.00m

孔口標高 20.25m



余白

H27-B-1



余白



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
													( N 値 ~ 深度 ) 図																						
6	15.55	6.60	砂礫	灰褐					5.40~5.60m付近には一部明赤灰色。明褐色。極暗赤褐色の礫が認められる。 5.72~5.74m: 暗褐色シルト (スライム) 6.15~6.30m付近は礫が著しく減少する。 6.30~6.60m付近は径1cm以上の半クサリ礫の礫が多く含まれる。礫種は花崗斑岩。礫径は2~50mmの垂角礫~亜円礫主体、一部最大径200mmの礫あり。 6.60~6.80m: スライムシルト混じり細~中粒砂からなる。 6.80~7.15m: 礫混じり砂 礫率5~10%で半クサリ礫を多く含む。砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。礫種は花崗斑岩。礫径は2~30mmの垂角礫主体。 7.15~7.30m: 有機質土 有機物を多く含む。 7.30~7.55m: 礫混じり砂 礫率5~10%で半クサリ礫を多く含む。砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。礫種は花崗斑岩。礫径は2~30mmの垂角礫主体。 7.55~8.60m: スライムシルト混じり細粒砂からなる。	0 50 100		0 10 20 30 40 50																							
																																	コア欠如	明褐色	
																																	15.41	6.80	礫混じり砂
7	15.16	7.15	有機質土	黒褐					7.15~7.30m: 有機質土 有機物を多く含む。 7.30~7.55m: 礫混じり砂 礫率5~10%で半クサリ礫を多く含む。砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。礫種は花崗斑岩。礫径は2~30mmの垂角礫主体。 7.55~8.60m: スライムシルト混じり細粒砂からなる。	0 50 100		0 10 20 30 40 50																							
																																	コア欠如	明褐色	
																																	15.06	7.30	有機質土
8	14.14	8.60	有機質土	黒褐					7.15~7.30m: 有機質土 有機物を多く含む。 7.30~7.55m: 礫混じり砂 礫率5~10%で半クサリ礫を多く含む。砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。礫種は花崗斑岩。礫径は2~30mmの垂角礫主体。 7.55~8.60m: スライムシルト混じり細粒砂からなる。	0 50 100		0 10 20 30 40 50																							
																																	コア欠如	明褐色	
																																	14.03	8.75	有機質土
9	13.96	8.85	有機質土	明褐色					8.60~9.50m: 礫混じり砂 礫率10~15%でクサリ礫や半クサリ礫を多く含む。砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂。礫種は花崗斑岩。礫径2~30mmの垂角礫~亜円礫。 8.75~8.85m付近はスライムを挟む。 9.25~9.35m付近に黒色土(土壌)に挟まれた砂層が認められる。黒色土層。砂層共に55°傾斜し全体の幅は10cm(真幅は黒色土2cm、砂4cm、下2cm)。黒色土層(上下)中に植物片が認められる。 9.50~10.00m: スライムシルト混じり細~中粒砂からなる。	0 50 100		0 10 20 30 40 50																							
																																		コア欠如	明褐色
																																		13.50	9.50
10	13.15	10.00	有機質土	明褐色					9.25~9.35m付近に黒色土(土壌)に挟まれた砂層が認められる。黒色土層。砂層共に55°傾斜し全体の幅は10cm(真幅は黒色土2cm、砂4cm、下2cm)。黒色土層(上下)中に植物片が認められる。 9.50~10.00m: スライムシルト混じり細~中粒砂からなる。	0 50 100		0 10 20 30 40 50																							
																																コア欠如	明褐色		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)						
														( N 値 ~ 深度 ) 図																					
11	12.69	10.65	砂礫	黄褐						10.00~10.65m: 砂礫 礫率50%以上で半クサリ礫を一部含む。砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。径0.5~1cmの石英が多く含まれる。礫種は花崗斑岩で一部アブライト含む。礫径2~200mmの亜角礫~亜円礫。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																					
	12.41	11.05	コア欠如	灰黄褐						10.65~11.05m: スライム シルト混じり細粒砂からなる。																									
	11.84	11.85	砂礫	にぶい褐						11.05~11.85m: 砂礫 礫率50~60%でクサリ礫~半クサリ礫を含む。砂は0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。径0.5~1cmの石英が多く含まれる。礫種は花崗斑岩。礫径2~100mmの亜角礫~亜円礫。																									
12	11.66	12.10	コア欠如	にぶい黄褐						11.85~12.10m: スライム シルト混じり中粒砂からなる。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																					
	11.39	12.49	粗砂	明褐						12.10~12.49m: 粗粒砂 礫率5%未満でクサリ礫を含む。砂は0.5~1.0mmの粗粒砂。礫種は花崗斑岩。礫径2~30mmの亜円礫。																									
13			花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg	Vg	cg	e	3	12.49~94.07m: 花崗斑岩 12.49~14.84m: D 強く風化した砂状を呈するが、原岩組織は残留する。割れ目は一部消滅しているが、多くは残留している。所々、幅1mm程度の灰白色の粘土が脈状に分布する。割れ目は10~30°の低角度系が主体。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																					
										14.84~24.44m: CL 全体に10~30°の低角度割れ目主体で、一部で割れ目沿いに風化で砂状化が進んでいる。18.30m以浅では所々、マンガン鉱染伴う。																									
14					Dg																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																		
															( N 値 ~ 深度 ) 図																																																	
		16	花崗斑岩	花崗斑岩	Dg	Dg	Vg	δ	δ		15.22~15.44m : 硬さCの硬質岩片が残留している。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																																																	
		17									16.00~17.62m : 割れ目周辺に硬さ「E」が部分的に分布する。																																																					
		17									16.75~16.84m : 径30~40mmの硬さ「C」の硬質岩片が礫状に分布。																																																					
		18									17.44m : 傾斜15°の割れ目沿いに幅1~4mmが砂状化する。																							Dg			cg	3																										
		18									18.10~22.19m : 上下に比べ割れ目少なくなる(コアの形状IV)。 18.31m : 傾斜10°で幅10mmマンガニ鉱染が脈状に分布、黒褐色化する。																							Dg			δ																											
		19	花崗斑岩	花崗斑岩	Dg	Dg	IVg				19.60m : 傾斜12°の割れ目沿いに幅10mm砂状化する。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																																																	
		19																																																														

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア 採 取 率 → ( % ) 最大 コア 長 → cm R Q D ↳ [ % ]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) / 測 定 月 日	標準貫入 試験 ( N 値 ~ 深 度 ) 図					原 位 置 試 験 ( 孔 内 水 平 監 視 )	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ブ / ビ ー ト	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)								
													0	10	20	30	40																			
21			+	花崗斑岩	に ぶ い 橙	Dg	IVg		20.37~20.42m: 傾斜10°の割れ目沿いに幅2~10mmで暗褐色の岩片混じり粘土を挟む。一部は不規則な割れ目に流入する。	14 (14)																										
22						Cg		cg δ	3	22.01~22.19m: 硬さ「C」の硬質部が残留。	7 (7)																									
23						Dg	Vg			23.05~23.80m: 20~30°と70~90°割れ目が交差し一部で交差部周辺で径10mm程度に細片化。岩片も硬さ「E」まで軟化している。割れ目面にマンガン汚染がみられる。 23.16m: 傾斜12°の割れ目沿いに幅15mmで緑色化する。	3 (3)																									
24						Eg	VIg	dg ε		24.16m以深では硬さ「E」も含む。全体に脆い岩片多い。 24.44~24.71m: D風化で土砂状を呈する。岩組織や割れ目はほぼ消滅している。	5 (5)																									
						Dg	IVg	cg δ		24.71~26.62m: CL10~30°割れ目が主体で割れ目沿いの一部は砂状化する。																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
														( N 値 ~ 深度 ) 図	( N 値 )													
26			+	花崗斑岩	にぶい橙	Dg	IVg	cg	δ	3	0	CL'																
						Eg	Vg																					
27	1.13	27.00		コア欠如						27.00~27.10m : コア欠如。																		
	1.06	27.10		+	にぶい黄橙	Eg	VIg	dg		δ	3	D'																
28	0.42	28.00		+	にぶい橙	Dg	IVg	cg		δ	3	CL'																
	0.29	28.19				コア欠如																						
	-0.01	28.61		+	明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3	CL'																	
	-0.06	28.68				コア欠如																						
				+	明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3	CL'																	
29	-0.29	29.00		+	明褐灰	Eg	Vg	cg	δ	3	D'																	
	-0.35	29.09				コア欠如																						

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → (cm) R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測定月日	標準貫入 試験 ( N値~深度 ) 図					原 位 置 試 験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル / ビ ッ ト	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)					
													0	10	20	30	40												50				
		31	+	明褐色	Eg				30.17~30.50m: マンガン鉱染伴う。 30.30~30.50m: 石英多く晶出(一部は変質による2次石英と推定される)。30.38m: 傾斜5°で幅1~3mmの石英脈を不連続に挟む。	4	D'																						
									黄褐 にぶい黄褐	Dg					30.74~32.49m: CL 硬さ「D」。主体だが部分的に硬さ「E」も含む。上端側の30.74~31.30m間は酸化汚染による黄褐色化が進むが軟化は伴わない。 31.05~31.23m: 熱水変質による粘土化変質。連化変質が著しく、前者では白色系粘土、後者では石英が脈状~晶洞状に晶出している。また、マンガン鉱染と酸化汚染も併い全体として黄褐色の濃い色調を呈する。 31.47m: 傾斜35°で幅5~8mmの灰褐色の砂混じりシルトを挟む。 31.70~32.20m: 割れ目沿いの砂状化が進み「砂混じり岩片状」を呈する。岩片は径10~30mm程度の硬さ「D」で残留するが全体にやや上下に比べ脆くなる。	3																	
		32		花崗斑岩	Vg cg	cg	δ		32.48~32.70m: D 原岩組織と割れ目はほぼ残留している。 32.70~34.54m: CL 割れ目沿いに厚さ1~2mm程度で薄く砂状化部を挟む。一部で砂状化が進行する部分もある。白濁化した長石多い。割れ目は10~20°が主体、一部で70~80° 割れ目と交差。		6				CL'																		
			明褐色						Dg				33.17m: 15° 割れ目と75° 割れ目が一部は交差し、一部は75° 割れ目が15° 割れ目で止まっている。15° 割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、15° 割れ目に系統的な割れ目も存在しない。 33.40m: 15° 割れ目沿いに厚さ20mm砂状化。 33.76m: 5° 割れ目沿いに厚さ10mm砂状化。	14																			
		34		明褐色	Eg Vg dg	dg		4					34.00m以深、密着度の低い潜在割れ目多くハンマーの打撃で細片化する。また、割れ目も消滅しかかっている。 34.03m: 40° 幅2~3mm石英脈、密着して連続。 34.54~34.59m: 破碎部 34.54~34.59m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端10~40°で大きく湾曲、下端11°で直線的に連続。径5mmの花崗斑岩岩片主体で岩片間は粘土状~砂状を呈する。にぶい黄褐色を呈する。幅40~50mm。 34.59m: 凝混じり粘土状部(Hc-2) 上下端とも11°で直線的に連続。径1mmの石英粒を10%程度含む。灰黄褐色を呈する。幅3~4mm。 34.59~35.37m: CL 細片化し易い砂着割れ目が多い。10~30°と50~70°の割れ目がみられる。	4																			



標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図 分	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 化 質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル ノ ン ベ ッ ト	給 水 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)									
													( N 値 ~ 深 度 ) 図																								
36			花崗斑岩 明褐色	Dg					35.37~37.15m: D 軟化著しく硬さ「E」主体であるが原 岩組織や割れ目はほぼ残留している。 部分的に硬質岩片を中石的に含む。	4 (0)	CL'																										
				Eg																																	
				Cg						36.09~36.26m, 36.53~36.62m: 硬 さ「C」の硬質部が残留する。	9 (0)	D'																									
				Eg																																	
				Cg																																	
37				Eg					36.70m以深で径10~30mmの硬さ「D」 ないし「C」の岩片が確状に残留する。																												
				Vg cg				3	37.15~42.00m: CL 0~30° 割れ目主体で、割れ目沿いの 一部で砂状化する部分も含む。	7 (0)																											
38									37.80m: 5° 割れ目沿い幅10~20mm砂 状化、微細な白雲母が晶出している。																												
				Dg					38.56~38.74m: 径20~30mmの硬さ「 C」岩片が残留する。	5 (0)	CL'																										
39									39.26~39.70m: 硬さ「C」の径30~5 0mm岩片が多く残留する。	4 (0)																											
									39.90m: 幅10~20mm, 0° で淡緑色部 が分布(緑泥石濃集部と推定される )。																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記号	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
															(N値~深度) 図	(N値)																	
		41	花崗斑岩	明褐灰		Dg	Vg	cg	3	<p>40.32~40.77m: 割れ目沿いの砂状化進心。硬さ「D」ないし「C」の岩片がその中に残留し、全体として砂状化を呈し、上下に比べやや脆くなる。底角度の割れ目の他、60°~80°の割れ目も分布する。</p> <p>41.50m・2' 割れ目沿い幅30mm淡緑色化(緑泥石化)し、径0.5~1mmの微細な白炭母が晶出している。</p> <p>41.95~42.00m: コアチューブ引上時に壊され礫状コア化したもの。硬さは「D」。</p> <p>42.00~42.41m: D 一部の割れ目と原岩組織は残留している。</p> <p>42.24~42.28m: 上端15°、下端18°割れ目に囲まれ、厚さ30mm軟質・淡黄色粘土化(変質度4)。上端側は緑色化している。幅1mm白色粘土脈も所々に点在する。マンガン鉱染がみられる。</p>	<p>最大コア長 R Q C D L [%]</p>	CL'	0 10 20 30 40 50																				
		42			にぶい橙		Vg	dg	δ	4	<p>●42.41~42.49m: 破砕部</p> <p>42.41~42.43m: 礫混じり粘土状部(Hc-2)</p> <p>上下端各々63°・54°で波打って連続。軟質で、径1~2mmの石英粒はわずかに、花崗斑岩岩片を計10%程度含む。にぶい黄褐色を呈する。幅10~15mm。</p> <p>42.43~42.45m: 礫質粘土状部(Hb) 上端54°、下端35°でいずれも波打って連続。軟質で、径1~2mmの石英粒、径5~10mmの粘土化花崗斑岩岩片を計20~30%含む。灰白色を呈する。幅5~10mm。</p> <p>42.45~42.49m: 粘土混じり岩片状部(Hj)</p> <p>上端35°、下端18°でいずれも波打って連続。下端の一部はやや不明瞭。径5~20mmの岩片からなり、岩片の一部は粘土状~砂状。にぶい黄褐色を呈する。幅40mm。</p> <p>42.49~44.24m: D</p> <p>著しく軟化するが原岩組織と割れ目の一部は残留している。傾斜10~30°及び60°~80°程度の割れ目がみられる。</p> <p>43.45~43.48m: 厚さ25mm・23°の石英脈が硬質で分布。</p>																						
		43		にぶい橙		Vg	cg	3	3	<p>●44.24~44.53m: 破砕部</p> <p>44.24~44.31m: 粘土質礫状部(Hb) 上端、幅1mm灰赤色軟質粘土で5~13°で湾曲して、下端35°で直線的に連続。やや硬質で、径2~3mm石英粒、径5~10mm(最大25mm)花崗斑岩岩片を30%程度含む。灰黄色を呈する。幅45~65mm。</p> <p>44.31m: 粘土状部(Hc-1)</p> <p>上下端とも35°で直線的に連続。軟質で、径1mmの石英粒をごくわずかに(5%以下)含む。灰黄褐色を呈する。幅1~2mm。</p> <p>44.31~44.53m: 粘土混じり岩片状部(Hj)</p> <p>上端35°で直線的に、下端70°で波打って連続。径5mm前後の粘土化した花崗斑岩岩片と岩片間は白色軟質の脈状~網状粘土脈からなる。灰褐色~淡黄色を呈する。幅140~200mm。</p>																							
		44		灰褐		Vg	dg	4	4	<p>●44.53~44.83m: 破砕部</p> <p>44.53~44.66m: 粘土混じり岩片状部(Hj)</p> <p>上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。径5~10mmの粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなる。にぶい橙色~灰白色を呈する。幅5mm。</p> <p>44.66~44.68m: 粘土状部(Hc-1) 上端65°で直線的に連続。下端65°で一部波打って連続。軟質で、径1mmの石英粒ごく少量(5%以下)含む。上下端側に直線的なせん断面と同方向に幅1~2mm、長さ5~10mmの脈状のマンガン鉱染部を伴う。灰黄褐色を呈する。幅4~5mm。</p> <p>44.68~44.70m: 礫質粘土状部(Hb) 上端65°で一部波打って、下端50~70°で湾曲して連続。やや硬質で、上位の軟質粘土と平行に分布し、径2mm石英粒、径3~5mm粘土化岩片を計20~30%含む。明赤灰色~灰白色を呈する。幅10~20mm。</p> <p>44.70~44.83m: 粘土混じり岩片状部(Hj)</p> <p>上端50~70°、下端75~85°でいずれも湾曲して連続。下端は幅1mm以下の灰黄褐色軟質粘土脈。径5~10mm粘土化岩片と岩片間の脈状~網状白色~淡黄色軟質粘土脈からなる。岩片間の基質部には黒褐色のマンガン鉱染部が点在する。灰褐色~淡黄色を呈する。幅20~50mm。</p> <p>44.83~45.36m: D</p> <p>強く実質し、網目状の灰白色粘土が分布する。原岩組織は残留する。</p>																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験				原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)	排水量 (L/分)																			
															( N値~深度 ) 図																																	
		46								4	<p>●45.36~45.39m: 破砕部 45.36~45.39m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。径5mm前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。にぶい橙色を呈する。幅6~10mm。 45.39m: 濃混じり粘土状部 (Hc-2) 上下端とも65°で直線的に連続。一部で幅1mmの2本に分枝・収れんする。やや軟質で、径1~2mm石英粒5~10%含む。灰褐色を呈する。幅2mm。 45.39~46.12m: D 幅1mm前後の軟質な白色粘土脈が多い。強変質しているが、原岩組織は残留する。 ●46.12~46.17m: 破砕部 46.12~46.16m: 粘土質岩片状部 (Hj) 上端31°でやや不明瞭ながら直線的に、下端35°でやや波打って連続。径6~10mmの粘土化岩片が粘土化基質中に離状に分布。下位のHc-2の粘土と平行した細かい割れ目や幅1mmの白色粘土細脈が分布。淡黄色を呈する。幅35mm。 46.16~46.17m: 濃混じり粘土状部 (Hc-2) 上端35°でやや波打って、下端35~70°で大きく湾曲して連続。やや硬質で、径1~2mm石英粒、径3mm粘土化岩片を20~30%含む。淡黄色~黒褐色を呈する。幅2~10mm。 46.17~47.40m: D 変質し、灰白色粘土が網目状に分布する。 46.73m: 55°割れ目。幅1mmの赤褐色粘土伴う。赤褐色粘土は途中でせん滅し、赤褐色粘土の直下の灰白色の細粒部も不連続で、いずれも連続性に乏しく、割れ目周辺の傾差組織も明瞭に認められる。また、同様な灰白色の細粒部は、深度46.20m以上に様々な方向で認められる。 ●47.40~47.51m: 破砕部 47.40m: 粘土状部 (Hc-1) 上下端とも58°で直線的に連続。やや軟質で、径1mm石英粒を5%含む。灰褐色を呈する。幅1~2mm。 47.40~47.51m: 輝質砂状部 (Hb) 上端65°、下端55°でいずれも直線的に連続。軟質で、径2~3mm石英粒を20~30%含む。黄褐色を呈する。幅70mm。 47.51~47.80m: D 原岩組織と多くの割れ目は消滅せずに残留している。砂、マンガンなどの挟在物をもつ割れ目が多い。 47.80~48.80m: CL 20~30°割れ目沿いに著しく軟化した硬さ「E」も所々に分布する。白色粘土細脈やマンガン脈を伴う。 48.80~49.17m: D 著しく軟化するも岩組織と割れ目の一部が残留している。 49.06mに62°の割れ目が分布。挟在物のない平滑な割れ目。割れ目の連続性は乏しい。 ●49.17~49.22m: 破砕部 49.17~49.20m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端25°で波打って、下端30~36°で湾曲して連続。軟質で、上端には幅1~2mmの直線的な暗褐色粘土脈を挟む。径2~3mm石英粒、径5mm粘土化岩片を20~30%含む。灰白色~明黄褐色を呈する。幅10~25mm。 49.20~49.22m: 粘土状部 (Hc-2) 上端30~36°、下端35~60°でいずれも湾曲して連続。軟質で、弱い綿状構造がみられる。径1~2mm石英粒を5~10%含む。明黄褐色を呈する。幅7~15mm。 49.22~49.27m: 上端35~60°で湾曲し、下端23°で波打って連続。上位の破砕部に比べて硬質で、径2~10mmの石英粒や岩片も硬く、原岩組織が明瞭に残る。岩片間に分布する粘土脈に系統性がない。下位の健岩部との境界は漸移的である。にぶい黄褐色を呈する。 49.27~49.40m: D 20~30°割れ目が多く残留するが割れ目沿いに風化・砂状化が進む。 49.40~51.94m: CL 硬さ「C」の岩片が主体で一部に軟化した「D」も含む。30°前後の割れ目が主体で、一部でこれに直交~斜交する60°前後の割れ目が分布。 51.06m以深では風化と変質は軽微となる。硬さ「B」と堅硬な岩片も混ざる。 49.45m: 傾斜65°で幅15mmのアブライト脈を挟む。</p>	0	50	100																																		
		47																				D'																										
		48																				CL'																										
		49																				D'																										
																						CL'																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (試験) 図 ( N値~深度 )					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
																0	10	20	30	40												50								
51			花崗斑岩	にぶい橙	Cg	cg	cg	δ	3			50.12~50.15m: 傾斜50°程度。幅10~20mmで岩片化した赤褐色部を伴う。	0	CL'																										
												Dg																												
52				花崗斑岩	灰褐	Cg	cg	γ	2				51.06~51.94m: 割れ目や密着度が低い層に割れ目が多い。潜在割れ目も褐色化している。 51.24~51.62m: 割れ目挟在物は殆んど分布しない。これ以外では割れ目沿いに幅1mm砂状化するものが多い。所々に幅0.5~1mmで密着した石英脈が分布。 51.63m: 15°割れ目沿い厚さ10mmが砂状化。	0	D'																									
													Eg																											
53					花崗斑岩	にぶい橙	Vlg	dg						●52.72~52.81m: 破砕部 52.72~52.80m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端56°で直線的に。下端14°で波打って連続。径5~10mm岩片 (硬さ「D」主体) と岩片間の幅1~2mm脈状~径2~5mm斑点状粘土部からなる。明褐色を呈する。幅40~90mm。 52.80~52.81m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端14°で波打って。下端14°で直線的に連続。軟質で。径1~2mm石英粒。径2~3mm粘土化岩片を10~20%含む。灰白色を呈する。幅7~10mm。 52.81~53.17m: D 変質し、軟質化している。30~50°程度の割れ目がみられる。 ●53.17~53.22m: 破砕部 53.17m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上下端29°で直線的に連続。軟質で。径1~2mm石英粒を10%程度含む。灰褐色を呈する。幅2mm。 53.17~53.22m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端29°。下端27°でいずれも直線的に連続。径5mm前後の粘土化岩片と岩片間の粘土~砂状部からなる。全体に明褐色を呈するが、上下端付近にはマンガン鉱染を伴い黒褐色化する。幅40mm。 53.22~53.45m: CL 20~30°の直線的な割れ目が多い。 53.45~53.54m: D 締った砂状を呈する。原岩組織と一部の割れ目は残留。 53.54~56.66m: CL 傾斜30~50°の割れ目が主体となる。 53.87~54.10m: 石英が多く晶出し径10~20mm斑点状~幅5~15mm・45~65°の脈状で分布する。 53.87~54.00m: 建築でレンズ状の石英も分布する。 54.00~54.60m: 石英脈なし割れ目沿いに砂状化し、全体がやや脆くなる。また同区間ではマンガン鉱染も伴い黒褐色を帯びる。 54.82m: 傾斜50°で幅2mm以下の黄褐色粘土を挟む。周辺は一部緑色化する。	0	CL'																								
														Vg																										
54						花崗斑岩	にぶい橙	Dg	cg						53.17~53.22m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端29°。下端27°でいずれも直線的に連続。径5mm前後の粘土化岩片と岩片間の粘土~砂状部からなる。全体に明褐色を呈するが、上下端付近にはマンガン鉱染を伴い黒褐色化する。幅40mm。 53.22~53.45m: CL 20~30°の直線的な割れ目が多い。 53.45~53.54m: D 締った砂状を呈する。原岩組織と一部の割れ目は残留。 53.54~56.66m: CL 傾斜30~50°の割れ目が主体となる。 53.87~54.10m: 石英が多く晶出し径10~20mm斑点状~幅5~15mm・45~65°の脈状で分布する。 53.87~54.00m: 建築でレンズ状の石英も分布する。 54.00~54.60m: 石英脈なし割れ目沿いに砂状化し、全体がやや脆くなる。また同区間ではマンガン鉱染も伴い黒褐色を帯びる。 54.82m: 傾斜50°で幅2mm以下の黄褐色粘土を挟む。周辺は一部緑色化する。	0	CL'																							
															Eg																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
															0	10	20	30	40												50										
		56	花崗斑岩	にぶい橙	Dg						55.00m: 傾斜50°で幅2mmのマンガンを挟む。  55.25m: 55°のシャープで直線的な割れ目を境とし、55.25~56.66mは硬さ「C」で硬質となる。ただし、割れ目沿いの一部では風化で砂状化を伴う。粘土を挟んでいるところが多い。	0																													
					Vg									7																											
					Wg	cg	δ							6																											
					Cg																																				
					Vg																																				
		57					Eg	Vg	dg	ε			56.66~56.84m: D 風化で締った砂状化呈する。径10~20mmの硬さ「D」の岩片が硬質に残留する。 56.84~58.77m: CL 56.84~57.90m: 硬さ「D」岩片主体で、一部に硬さ「E」が残留する。		CL'																										
							Dg						57.30m未満では、割れ目沿いに風化・砂状化が進む。																												
													57.75~57.90m: コアチューブ引上時に糠状コア化したものと推定される。 57.90~58.34m: 硬さ「C」岩片主体。 57.96m及び58.05mにそれぞれ45°、50°で幅1~2mm石英脈が密着して分布。各割れ目沿いに軽微なマンガン脈染染ける。																												
													58.28m: 割れ目交差部周辺で砂状化。 58.34~58.77m: 硬さ「D」岩片主体。一部の割れ目沿いで砂状化が進み、割れ目が消滅しかかっているものもある。																												
													58.77~59.82m: D 風化で著しく軟化し締った砂状化部が主体。原岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や灰白色の粘土脈を挟んでいる。																												
													59.18m: 20°、厚さ5mmの軟質な灰白色粘土挟む。 59.28~59.48m: コアの擾乱により割れ目が消滅している。																												
													59.60~59.65m: 3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布。砂や灰白色の粘土薄層(厚0.5~1mm)挟む。  ●59.82~59.85m: 破砕部 (D-1) 59.82~59.85m: 粘土混じり岩片状部 (H)																												
											上端22° 一部不明瞭で波打って、下端28°で直線的に連続。径2~5mm石英粒、径5~10mm粘土化岩片と粘土化した岩片間からなる。にぶい褐色を呈する。幅30mm。 59.85m: 粘土状部 (Hc-1) 上端28°、下端28°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色~灰白色を呈し、織状構造がみられる。幅5~7mm。 59.85~60.09m: CL																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) ← ( ) 最大コア長 cm → R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																		
														(N値~深度) 図																																	
61			花崗斑岩 にふい橙	I <sub>g</sub>		D <sub>g</sub>	cg	δ	3	60.54m以浅は割れ目沿いに風化が進み、硬さ「E」も含まれている。60.54m以深は硬質となり硬さ「C」が主体である。前者では、割れ目沿いにマンガン鉱染を伴う。60.32~60.46m間は黄色味を帯びる。	CL'																																				
62										II <sub>g</sub>			Bg	IV <sub>g</sub>	bg	γ	2	60.99~61.39m: CH 堅硬。割れ目に挟在物挟まない。  61.39~63.61m: CM 上部の61.39~61.42m間と62.82m以深は、割れ目沿いに風化が進み砂状化する部分があるが、その他区間では割れ目に挟在物はほとんど分布しない。	CM'																												
63																		cg		δ	3	62.53~62.57m: 互いに直交する割れ目交差部で一部細片化するが、砂状化や粘土化による劣化は伴わない。	D'																								
64										E <sub>g</sub>		VI <sub>g</sub>	dg	ε	62.82~63.61m: 岩片は硬いが(硬さ「D」)、割れ目沿いに幅2~10mm程度砂状~細かく片状化する。粘土化部や粘土脈は挟まない。	CM'																															
															C <sub>g</sub>		V <sub>g</sub>	cg	δ	2	63.61~64.00m: D 割れ目沿いの風化が著しく進み砂状化する。径10~60mm硬さ「D」「C」岩片が残留し、「砂礫状」呈する。一部で割れ目が残留している。63.90~63.94m: 60° 幅1~3mm石英脈が2条分布。 64.00~64.33m: CL 50~60°と70° 割れ目がほぼ直交し、交差部では径10mm程度に細かく岩片化する部分もある。	D'																									
																					Bg		IV <sub>g</sub>	cg	δ	2	64.33~66.07m: CM 割れ目の多くは割れ目沿いに薄く砂状化する。	CM'																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記号	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																													
															0	10	20	30	40												50																																																																																																												
66			+	花崗斑岩	にふい橙			δ	2		65.22~65.30m: 40° と 70° 割れ目が交差し、幅10~20mmと風化砂状部が拡大している。また、わずかながら白色粘土や微細な黄鉄鉱、セリサイトも伴っている。	10 (10)	CM'																																																																																																																														
																																		67			+	花崗斑岩	にふい橙			γ	3	65.90m: 径20mmと大型な石英斑晶が晶出。 66.07~66.62m: CL 風化したゆる割れ目や密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの軽打で細片化する。 66.62~67.14m: D 径5~20mm硬質岩片と風化による砂状部からなり、砂礫状を呈する。 66.85m以深では原岩組織や割れ目の一部も残留する。また、部分的に灰白~淡黄色粘土も点在する。 66.97m: 傾斜55° で幅1~5mmの黄灰色粘土を挟む。 67.14~67.27m: CL 50° 割れ目沿いに軟化が進む。 67.27~67.80m: CM 割れ目沿いに砂状化するものが多い。 67.40~67.47m: 径5~10mmに砕け角礫状化する。	9 (9)	CL'																																																																																													
																																																																					68			+	花崗斑岩	にふい橙			ε	3	67.80~67.93m: D 50~60° 割れ目沿いに砂状化し、径10mm硬質岩片を含む砂礫状を呈する。 67.93~68.15m: CL 45° 割れ目沿いに薄い砂状部を挟む。 68.15~68.60m: CM 割れ目に挟在物は分布しない。	9 (9)	CM'																																																										
																																																																																																							69			+	花崗斑岩	にふい橙			δ	2	68.43~68.49m: コアチューブ引き上げ部の擾乱で、径5~20mm礫状~片状に砕けているが砂や粘土は挟まない。 68.60~69.05m: D 軟化著しい硬さ「E」であるが、原岩組織や割れ目は明確に残留している。 68.60~68.65m: コアチューブ引き上げ部の擾乱で砂状化している。 68.79~68.90m間は硬さCの硬質部を含む。 68.96~69.06m: 風化が著しく明黄褐色を呈する。 69.05~69.56m: CL 30~50° 割れ目主体。密着度の低い潜在割れ目も多く含む。割れ目沿いに厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。 69.07~69.10m: 幅3cmでマンガンが濃集する。 69.56~69.70m: D 少量の白色粘土細脈を伴う。 ●69.70~69.73m: 砂礫部 69.70m: 粘土状部 (Hc-1) 上下端55° で直線的に連続。軟質で、にふい黄褐色を呈する。幅1mm。 69.70~69.73m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端55° で、下端57° でいずれも直線的に連続。径3~10mm硬さE (粘土化)。Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。灰黄色を呈する。幅23mm。 69.73~74.10m: CL 硬さ「D」と硬さ「C」の区間が交互に出現する。硬さ「D」では割れ目に砂などの挟在物が分布するが、硬さ「C」区間では挟在物はほとんど分布しない。	3 (3)	CL'																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ( % ) 最大コア長 R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進 掘進速度 ( cm / 時 )	孔径 ( mm ) / 孔壁保護	コアチューブ / ピット	給 回 送 送 排 転 水 水 水 水 数 圧 量 量 量 量 ( rpm ) ( MPa ) ( L / 分 ) ( MPa ) ( MPa ) ( L / 分 ) ( MPa ) ( MPa ) ( L / 分 ) ( MPa ) ( MPa ) ( L / 分 ) ( MPa ) ( MPa ) ( L / 分 )								
															N	0	10	20	30							40	50						
		71	花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	cg	δ			70.06~70.59m : 45° 割れ目沿いに風化で砂状化する。	0 50 100																					
					灰褐色	Cg		bg	γ																				70.43~71.27m : 硬さ「C」のうち、70.49~70.59mでは径5mmの白濁化した長石が多い。70.59m以深では少ない。	10 (10)			
		72		にぶい橙		Dg			δ			71.27~71.60m : 45~60° 幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土が脈状に分布する。その一部は風化で褐色化する。	9 (9)	CL'																			
						Cg	Wg	cg	γ			71.37~71.50m : 径10mm前後の大型の石英斑晶が点在。岩片も硬さ「C」と周囲より硬質化している。																					
		73		灰褐色	Dg		bg	γ			71.88m : 0~10° 幅1mm石英脈が密着して連続。	6 (6)																					
						Cg		bg	γ	3																						72.10~72.74m : 硬さ「C」区間では割れ目挟在物はほとんど分布しない。長石の一部は白濁化する。	
		74		灰褐色	Dg	Vg	cg	δ			72.74~74.10m : 硬さ「D」主体だが、硬さ「C」の岩片も含んでいる。割れ目沿いに風化、砂状化することがある。	8 (8)																					
						Cg	Wg																										73.35~73.38m : 厚さ25~40mmで締った砂状化を呈する。変質している。原岩組織は残留している。
			にぶい黄橙	Vg		dg				73.65~73.76m : 30° と60° の割れ目が交差し。径10~50mmの岩片状コアを呈する。	6 (6)																						
				Eg	Vg	cg	ε	3		74.10~74.36m : CM																							
			にぶい黄橙	Vg		dg				74.36~74.50m : 破砕部	6 (6)																						
				Eg	Vg	cg	ε	3		74.36~74.40m : 礫質砂状部 (Hb) 上端27° で直線的に、下端30° で不明瞭に湾曲して連続。軟質で、径2~3mm石英粒。粘土化した径5mm岩片を約10%含む。にぶい黄橙色を呈する。幅0~30mm。																							
			灰褐色	Eg	Vg	cg	ε			74.40~74.41m : 粘土状部 (Ho-1) 上端30°、下端30° でいずれも湾曲して連続。軟質で、径1mm石英粒をわずかに (5%以下) 含む。灰褐色を呈する。幅7mm。	6 (6)																						
				Eg	Vg	cg	ε	3		74.41~74.50m : 礫質砂状部 (Hb) 上端30° で湾曲して連続。下端はコアチューブ引き上げによる擾乱部で不明。軟質で、径2~3mm石英粒。粘土化した径5~30mm岩片を10~20%含む。にぶい黄橙色を呈する。幅75mm以上。																							
				Eg	Vg	cg	ε			74.50~75.57m : D	6 (6)																						
				Eg	Vg	cg	ε		74.50~75.00m : コアチューブ引き上げ部周辺で礫状コアで採取され、割れ目状況など不明。																								



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	標準貫入 (N値~深度) 試験				孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
															(N)	(R)	(Q)	(D)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
				灰褐							75.00~75.57m: 原岩組織は残置しているが、多くの割れ目は消滅している。	0	50	D	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	76	Vg									cg																					3	●75.57~76.00m: 破碎部	0	50	D	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		Eg																														4	75.57~75.71m: 粘土混じり岩片状部 (Hj)																													0	50	D	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		Vlg									dg																					3	75.71~75.73m: 縦混じり粘土状部 (Hc-2)																																																									0	50	D	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																																																																																					
		Eg																															ε																																																																																					上端68°で波打って、下端68°で直線的に連続。軟質で、径1~3mm石英粒と径3mm岩片を5~10%含む。灰褐色を呈する。幅10~12mm。	0	50	D	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																																																								
		Vg																														2	75.73~75.93m: 縦質粘土状部 (Hb)																																																																																					0																													50	D	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																													
		Vg																															γ																																																																																																																																														上端68°で直線的。下端64°で波打って連続。硬質で、径2~4mm石英粒、径5~10mm岩片を10~15%含む。石英粒は直線的なせん断面方向に配列している。明褐色~灰褐色を呈する。幅55mm。	0	50	D	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																															
		Vg																														ε	75.93~76.00m: 粘土混じり~粘土質岩片状部 (Hj)																																																																																																																																														0																														50	D	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																			
		Vg																															ε																																																																																																																																																																																																								上端64°で波打って、下端は不明瞭(30°?)に連続。径5~10mm岩片と岩片間の粘土からなる。明褐色を呈する。幅60mm以上。	0	50	D	0	10	20	30	40	50																																																																																																					
		Vg																														ε																																																																																																																																																																																																									76.00~76.91m: D																														0	50	D	0	10	20	30	40	50																																																																								
		Vg																															ε																																																																																																																																																																																																								76.91~77.19m: CL																																																											0	50	D	0	10	20	30	40	50																																											
		Vg																														ε																																																																																																																																																																																																									77.19~78.00m: D																																																																																									0	50	D	0	10	20	30	40	50													
		Vg		ε	78.00~78.43m: CL	0	50	D	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
		Vg			ε																											78.43~78.72m: D		0	50	D	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		Vg		ε																												78.72~78.87m: 破碎部																														0	50	D	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		Vg			ε																											78.87~79.27m: 硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。傾斜85~90°の割れ目が分布する。																																																										0	50	D	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																																																																																					
		Vg		ε																												79.27~80.66m: 硬さ「C」主体。上端側の79.27~79.59mは硬さ「B」と堅硬。																																																																																							0	50	D	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																																																								
		Vg			ε																											79.54m: 傾斜50°で幅0.5~1mmの灰白色粘土を挟む。																																																																																						0																													50	D	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																													
		Vg		ε																												79.69~79.95m: 褐色化するが珪化のため硬さ「C」と硬質。																																																																																																																																																0	50	D	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																															
		Vg			ε																											79.96~80.23m: 45°前後の割れ目が多い。これらの割れ目には褐色粘土やマンガンを含み、厚さ0.5~3mmで挟んでいる。																																																																																																																																															0																														50	D	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																			



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ペット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
															( N値~深度 ) 図																										
				花崗斑岩	灰褐	Cg	IVε	cg				85.01m: 幅1mm以下, 22°石英脈が50°割れ目と斜交して連続。																													
							にぶい黄褐色	Dg					85.38~85.41m: 破碎部																												
86							明黄褐色	Bg	IVε	bg	γ	2	85.38~85.41m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端45~50°で1箇所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端47°で直線的に連続。軟質で、径2~3mm石英粒と径3~5mm粘土化岩片と基質の砂状~粘土状部からなる。にぶい黄褐色を呈する。幅20~25mm。上端の割れ目沿いにマンガン鉱染受け黒褐色化する。 85.41m: 粘土状部 (Hc-1) 上端47°、下端47°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1mm石英粒をこくわずか (5%以下) 含む。灰黄褐色を呈する。幅2mm。 85.41~85.92m: CL 上位の破碎部の直線的なせん断面と同方向の40~60°割れ目主体。砂や粘土を挟む。所々、割れ目沿いに幅1~2cm程度緑色化を呈する。																												
87							灰褐	Dg	Vε	cg	δ	3	85.92~86.43m: D 割れ目沿いに砂状化が拡大。径10~30mm硬さ「C」岩片を多量に混えた砂礫状を呈する。 86.43~86.86m: CM 堅硬であるが、割れ目が多い。挟在物はほとんど分布しない。 86.86~87.20m: CL 50~60°割れ目沿いを主体に軟化が進む。断片的に硬さ「C」岩片も礫状に残留している。 87.20~87.51m: D 風化で締った礫質砂状を呈する。幅1~3mmの橙色粘土も脈状に分布する。																												
88							灰褐	Bg	IVε	cg	γ	2	87.51~87.93m: CL 割れ目沿いに風化が進んでいる。全体に硬さ「C」の岩片が主体である。割れ目には風化起源の締った砂、粘土脈、マンガンを含むことが多い。 87.81~87.90m: 傾斜60°程度で細片化著しい。マンガンを伴う。 87.90~88.51m: 硬さC主体。傾斜20°と50°の割れ目が交差し細片化している。 88.06m: 傾斜52°で幅2mmの赤褐色粘土を挟む。周辺は幅5mm程度で緑色化している。																												
89							灰褐	Bg	Vε				88.51~89.10m: 40~50°の割れ目は1~2cm間隔で平行に分布。割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土挟む。それと60°斜交~直交する割れ目や幅1mm石英脈も分布。																												
								Cg			δ	3																													
								Bg				γ	2																												
								Vε																																	
								Cg				δ	3																												
								Bg	IVε			γ	2																												
								Dg	Vε			δ	3																												
								Bg	IVε			γ	2																												
								Dg	Vε			δ	3																												
								Bg	IVε			γ	2																												

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	事	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位(m) / 測定月日	標準貫入		試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コアチューブ / 孔壁保護	給 圧 ( kN · MPa )	回 転 数 ( rpm )	送 水 圧 ( MPa )	送 水 量 ( L / 分 )	排 水 量 ( L / 分 )	
																( N 値 ~ 深度 )	図	( N 値 )	値												
91	46.30	94.07	+	花崗斑岩	灰褐	Bg	IVg	γ	2	90.70~91.00m: 傾斜80° の割れ目が発達する。	91.16~91.25m: 低角度割れ目と高角度割れ目が交差し、径10mm前後の細岩片状に砕けている。下端にマンガン鉱染伴う。	7	CL	0	10	20	30	40	50												
							Cg	Vg	δ			3																			7
92			+	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IVg	γ	2	92.32m: 53° 割れ目沿いに径0.5mm前後の鐵礫(セリサイト?)が晶出している。周辺は幅3mmで緑色化する。	92.60~94.07m: 傾斜30~90° の割れ目にマンガンを挟むことが多い。	6	CL	0	10	20	30	40	50												
							Cg	Vg	δ			3																			6
93			+	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IVg	γ	2	93.53~93.61m: D 割れ目沿いに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。	94.00~95.85m: CL 94.07~94.88m: 上下端65° で貫入するアブライト。上下端とも割れ目化し、破砕や変質粘土は伴わない。貫入面(65°)に60° 斜交~直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。一部で層状の模様(65~60°)をもつ。直上の花崗斑岩と直下のアブライトに破砕や変質は与えていない。	5	CL	0	10	20	30	40	50												
							Cg	Vg	δ			3																			
94			+	花崗斑岩	暗緑灰	Bg	IVg	γ	2	94.00~95.85m: CL 94.07~94.88m: 上下端65° で貫入するアブライト。上下端とも割れ目化し、破砕や変質粘土は伴わない。貫入面(65°)に60° 斜交~直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。一部で層状の模様(65~60°)をもつ。直上の花崗斑岩と直下のアブライトに破砕や変質は与えていない。	94.88~97.00m: アブライト 94.88~95.67m: 傾斜30~60° の割れ目の一部に幅1~2mmの灰白色粘土やマンガンを伴う。	6	CL	0	10	20	30	40	50												
							Cg	Vg	δ			3																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	硬軟 形状	割れ 目の 状態	風化 状態	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級 区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内 試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コア チップ / ペット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)				
														0	10	20	30	40												50			
				アブライト	明褐灰	Cg Vg	δ	3		95.22~95.25m: 割れ目沿いに砂状化・マンガン伴う。 95.30~95.45m: 緑色帯びる。	0 50 100 6 [4]	CL'																					
96				アブライト	灰褐	Bg IVg				95.85~96.58m: CM 硬さ「B」と硬いが、密着度の低い割れ目が多く、一部で細片化する。傾斜10~20°とそれと直交する50°の割れ目がみられる。 96.00~96.10m: 割れ目沿いに幅1~2mm砂状化し、灰白色粘土脈も挟む。	10 [10]	CM'																					
97	48.37	97.00		花崗斑岩	灰褐	Cg Vg		γ	2	96.58~97.11m: CL 傾斜50°程度の割れ目が多く、一部に幅1mmの灰白色粘土や砂状化した部分を挟む。 96.71~96.76m: 傾斜50°の割れ目が密集し細片化する。コアは軟質である。	6 [6]	CL'																					
	48.77	97.57		花崗斑岩	にがい橙 (濃い赤褐)	Bg IVg				97.00~140.00m: 花崗斑岩 全体に珪化し、組織が不明瞭になっている。所々、アブライトを挟む。	6 [6]	CL'																					
98				アブライト	にがい橙 (濃い赤褐)	cg Vg	ε	4		97.57~101.85m: アブライトを挟む。 花崗斑岩との境界は上端45°の割れ目。下端90°で付着している。 97.57~97.88m: D 硬さ「C」の岩片も残留するが、全体は締った土砂状。下端付近の97.85mに40°幅1~5mm赤褐色藍物脈が分布。全体にマンガン脈を挟み、97.71~97.85m間は大きくうねった割れ目が密集する。 97.88~100.51m: CM 硬質で風化と変質も弱くなる。密着度が低い割れ目やゆるぎ割れ目が多く10cm以上の柱状コアはごくわずか。割れ目挟在物はほとんど認められない。 97.88~101.00m: 割れ目沿いに酸化・マンガン汚染がみられる。	13 [26]	CM'																					
99				アブライト	褐灰	Bg IVg bg	γ	2		99.03m: 35°割れ目に微細な黄鉄鉱が晶出している。	12 [12]	CM'																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)		
															N	値	0	10	20												30	40
101	51.34	101.20	[Pattern]	アフライト	褐灰	Bg	IVg	bg	γ		100.00~100.51m: ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目が多く細片化し易い。	0	CM'																			
											100.51~100.72m: CL 風化で一部割れ目沿いに砂状化し、幅5~10mmでマンガン鉱染も受ける。																					
											100.72~102.35m: CM 割れ目には挟在物はほとんど認められない。一部でゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。全体に径2~3mmの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。																					
102	51.62	101.60	[Pattern]	アフライト	IVg						101.20~101.60m間は斑晶がやや多く花崗斑岩となる。アフライトとの境界は漸移的である。	0	CM'																			
											101.57~101.58mと102.00~102.05m間は割れ目沿いに片状~稜状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。																					
											101.61~101.72m: 傾斜70~80°の割れ目の一部に白色脈(幅2mm以下)を挟む。																					
103	51.80	101.85	[Pattern]	アフライト	IVg						102.05~102.35m: 高角度で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。	0	CM'																			
											102.35~105.00m: CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。部分的に割れ目沿いに薄く砂状化した粘土脈やマンガンを含み、全体では挟在物はほとんど含まない。径2~5mmの暗緑色鉱物(緑泥石)が点在する。																					
											102.65m: 傾斜50°で幅1mmの石英脈を伴う。 102.75m: 傾斜50°の割れ目に沿って白濁化している。																					
104			[Pattern]	花崗斑岩	Bg		bg	γ			103.30m: 傾斜70~80°で互いに交差する幅1~5mmの石英脈を伴う。	0	CH'																			
											103.52~103.54m: 割れ目沿いに薄く砂状化する。																					
											103.98m: 傾斜50°の割れ目に沿って幅5mm程度緑色化している。																					



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・r MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)		
															( N ) 値	0	10	20	30												40	50
111	58.07	110.72	+	花崗斑岩	褐灰	IIIg					110.43~112.04m: CM 堅硬で割れ目に挟在物はほとんど分布しない。	0 50 100 20 133	CM'																			
				アブライト	灰褐	Bg	暗緑灰	IVg	110.72~111.54m: アブライト脈を挟む。上端15°で機械割れ、下端45°で湾曲し、境界は明瞭で一部ゆ着している。	111.13~111.37mは緑泥石化で暗緑色を呈する。																						
112	58.65	111.54	+	花崗斑岩	灰褐						111.37~111.54mは最大径2cmの石英、カリ長石からなるペグマタイト。両者の境界部はよく密着し、破碎や変質は伴わない。	0 50 100 1 120	CL'																			
					にふい橙	灰褐	Cg		Vg	112.04~112.83m: CL 30~60°とこれに直交~斜交する50~70°割れ目が主体。割れ目交差部の一部では岩状化する。 112.04m以深は硬さ「C」主体で、一部の割れ目沿いは風化で薄く砂状化する。粘土化や粘土脈は分布しない。全体にマンガン鉱染を軽微に受け、割れ目の面沿いは薄く黒褐色化する。高角度割れ目が発達している。																						
113			+	花崗斑岩	明褐灰	Dg	cg				112.83~113.51m: CL 割れ目沿いに砂状化が進むことが多い。 113.03~113.31m: 消滅したり、消滅しかかっている割れ目も分布する。 113.10~113.13m: コアチューブ引上げ時に乱され、硬状コア化している。全体に灰白~灰黄色の粘土脈を伴う。	0 50 100 4 10	D'																			
					灰褐	Eg	VIg	dg	3	●113.51~113.60m: 破砕部 113.51~113.56m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端55°で、下端66°でいずれも波打って連続。径5~10mm硬さDの岩片で、岩片間は薄く粘土化~砂状化する。灰褐色を呈する。幅20~35mm。 113.56m: 粘土状部 (Hc-1) 上端66°、下端66°でいずれも小さく波打って連続。途中で幅1mmの粘土に分岐する。軟質で、径1mm石英粒わずかに含む。灰白色を呈する。幅1~2mm。 113.56~113.60m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端66°で小さく波打ち、下端63°、幅1mm以下のにふい橙色の直線的な軟質粘土として連続。径5~10mm岩片と岩片間の粘土~砂状部からなる。このうち、113.58~113.60mは硬質砂状を呈し、灰褐色を呈する。幅15~20mm。 113.60~113.70m: D 径2~20mmの亜角礫を30%程度含む暗褐色砂状部。下層境界は2系統の割れ目に沿っており、一部は割れ目を充填している。やや軟質。																						
114			+	花崗斑岩	明褐灰	Cg	Vg	cg			113.70~114.00m: 傾斜45°程度の2系統の割れ目が分布し、一部は砂礫状を呈する。 114.00~114.75m: CL 高角度80°と低角度20°の割れ目が交差し概ね30mm以下に岩片化。割れ目の一部は砂状化~マンガン鉱染を受ける。一部は掘削時に岩片化したものを含む。	0 50 100 5 10																				
					明褐灰	Eg	VIg	dg	ε	114.75~115.52m: D 風化著しく大半が砂状化し、砂礫状を呈する。一部は掘削時に岩片化したものを含む。																						



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																	
														( N 値 ~ 深度 ) 図																																
			花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vε	dg	ε	3	115.28m以深では割れ目の一部が残留している。	D'																																			
116										にぎい褐		Cg					115.52~118.63m: CL 60~70° の高角度割れ目と30° 前後の低角度割れ目が交差する。割れ目沿いの多くは砂状化する。一部は掘削時に岩片化したものを含む。	CL'																												
117																	にぎい橙		Vg	cg	δ		116.87~117.00m: 径10mm前後の塊状コア。これは掘削時に割れ目沿いの砂状部分が流失したためと推定される。 117.00~118.26m: 割れ目沿いに砂状化が進んでいる。岩片は径10~30mm 硬さ「C」主体。割れ目は60~70° とこれにほぼ直交する40° 前後が多く、交差部では径5mm前後に細片化するものもある。所々、幅1~3mmの灰白色粘土を挟む。	D'																						
118																							にぎい黄褐		Eg				117.25m, 117.82mなど、60~70° 割れ目は40° 割れ目を止めている部分がある。止めている割れ目に細粒部は伴わない。もしくは局所的にしか分布せず。割れ目周辺の原岩組織は明瞭に認められる。	D'																
119										灰褐		Cg	Vg			3	118.10~118.26m: 割れ目の一部は軽微なマンガン結晶を受ける。 118.26~118.63m: 上位よりも更に割れ目沿いの砂状化が進んでいる。厚さ1~2mmの白色粘土脈を網目状に挟む。	CM'																												
				Bg	IVε	bg	γ	2	118.63~118.94m: D 砂状化が著しくなり、締った砂礫状を呈するものが主だが、硬さ「C」岩片のみからなる部分も残留。 ●118.94~119.12m: 礫砕部 118.94~119.10m: 砂混じり岩片状部 (H) 上端32°、下端60° でいずれも直線的に連続。直線的なせん断面に平行な割れ目とこれに60° 前後で斜交する割れ目が多く、径5~10mmに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化する。にぎい黄褐色を呈する。 119.10~119.12m: 礫混じり粘土状部 (Ho-2) 上端60° で直線的に、下端60° で波打って連続。軟質で、径1~2mm石英粒、径3~10mm粘土化~硬さ「D」岩片を10~20%含む。粘土中には、表面がマンガン化した径1mmの石英粒が多い。浅黄色を呈する。幅13~15mm。また、下端~上端へ斜交する幅2mmの軟質な黒色粘土脈が分布する。																																					
															119.12~119.30m: CL 60~70° 高角度割れ目とこれに斜交する40° 割れ目が多く細片化するが、挟在物はほとんど分布しない。一部は掘削時に岩片化したものを含む。 119.30~120.78m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆる着割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。 119.30~120.00m間は傾斜30~60° 程度の割れ目が1~5cm程度の間隔で分布し、120.00~120.78m間は傾斜10~30° 程度の割れ目が1~10cm程度の間隔で分布する。																															



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ( % ) 最大コア長 cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rMPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														0	10	20	30	40												50		
		126	花崗斑岩	褐灰	IV <sub>g</sub>	V <sub>g</sub>	IV <sub>g</sub>	β	β	125.06~125.28m: CL ゆるぎ割れ目などから分離・細片化している。砂や粘土は挟まない。 125.28~127.68m: CM 開口割れ目と平行方向のゆるぎ割れ目や密着度の低い割れ目を含んでいる。ハンマーの強打で一部は分離・細片化する。ごく一部(下記127.16~127.25m間)でごく薄く風化する以外はほぼ新鮮、未風化。	8 [8]																					
		127								にぶい褐																						
		128		灰黄褐	V <sub>g</sub>	V <sub>g</sub>	δ	γ	δ		128.64~128.88m: CL 径10mm前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目面には砂が付着することがある。割れ目沿いに風化が進行していると推定される。 128.88~129.91m: CM 60~70°の高角度と30~40°の中角度割れ目の交差部では径10mm前後に片状~角礫状化するが、砂状部や粘土化部は挟まない。	8 [8]																				
		129								褐灰	IV <sub>g</sub>																					
						III <sub>g</sub>		β																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化質	記事	コア採取率 ( % ) 最大コア長 cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N値 ~ 深度 ) 図		原位試験 (孔内水平露出)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
													N 値	深度																				
		131	花崗斑岩	褐灰					130.00~140.00m: 灼着割れ目が約10mm間隔で分布。	0	CH'		0																					
		132													131.40~131.52m: 径20~30mmに角礫状化しているが、これはロッド引上時に生じた人為的な現象と推定される。	26																		
		133													131.93~132.07m: CM 灼着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものも多い。割れ目の一部は風化で薄く砂状部を挟むことがあるが、挟在物がない(b)割れ目が主体。 132.07~132.24m: 径10~20mm角礫状化する。割れ目面に砂が付着するものが多い。微細な黄鉄鉱も伴う。同区間は珪質である。 132.18~132.33m: アブライト脈を挟む。上端はコアチューブ引き上げ部で不明。下端は0°で明瞭な境界をもち、面は灼着している。	11																		
		134													133.20~133.25m: アブライト脈を挟む。上端、下端とも傾斜5°で明瞭な境界をもち、面は灼着している。 133.40~134.00m: 灼着した密着割れ目沿いに開口化し、径10mm前後に細かく砕けている。 133.82m: 60°割れ目沿い幅20mmが径3~5mmの細片状化しているが、風化に起因する砂や粘土は挟んでいない。 134.78m: 傾斜35°で幅2mm以下の石英脈を挟み、一部に白色の細脈を伴う。 134.87~134.91m: 傾斜56°、幅25mmで緑色化している。	7 9																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
													0	10	20	30	40												50								
136			花崗斑岩	褐灰					135.41m: 傾斜20°の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。 135.45m付近: 傾斜55°の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。	0	CM'																										
									Bg	β		6	100																								
137									IVg			11	100																								
									2			137.00~138.07m: ゆき割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。すでに開口割れ目化しているものも多い。径2~3mm暗緑灰色の緑泥石が斑点状に点在する。	6	100																							
138									bg			6	100																								
139									138.07~138.44m: CM 密着度の低い潜在割れ目を多く含む。全体として硬さ「C」である。長石の白濁化や割れ目挟在物はほとんど認められない。径2~3mm暗緑灰色の緑泥石斑点が多い。 138.44~138.80m: CH 堅硬。塊状。ゆき割れ目が多いが、密着度高くハンマー強打でも分離しない。 138.80~139.82m: CL 139.18m以浅は硬さ「C」、以深は軟化が進み「D」である。全体に割れ目挟在物はほとんど含まない。 138.93m: 60~70°厚さ5~10mmで湾曲しながら石英脈が密着~一部割れ目化して連続。 138.95~139.08m: 30~40°と70°割れ目が交差し岩片状を呈する。劣化は軽微ない。 139.18m以深は上位より風化と変質が進む。 139.31m: 72°割れ目扱い厚さ2~3mmマンガン鉱染発ける。	6	100																										
									139.07~139.44m: CM 密着度の低い潜在割れ目を多く含む。全体として硬さ「C」である。長石の白濁化や割れ目挟在物はほとんど認められない。径2~3mm暗緑灰色の緑泥石斑点が多い。 139.44~139.80m: CH 堅硬。塊状。ゆき割れ目が多いが、密着度高くハンマー強打でも分離しない。 139.80~139.82m: CL 139.18m以浅は硬さ「C」、以深は軟化が進み「D」である。全体に割れ目挟在物はほとんど含まない。 138.93m: 60~70°厚さ5~10mmで湾曲しながら石英脈が密着~一部割れ目化して連続。 138.95~139.08m: 30~40°と70°割れ目が交差し岩片状を呈する。劣化は軽微ない。 139.18m以深は上位より風化と変質が進む。 139.31m: 72°割れ目扱い厚さ2~3mmマンガン鉱染発ける。	6	100																										
									139.82~139.88m: 砕砕部 139.82m: 粘土状部 (Hc-1) 52°で直線的に連続。軟質で、石英粒、岩片を含まない。暗緑灰色~灰褐色を呈する。幅0.5~1mm。 139.82~139.88m: 砂混じり岩片状部 (Hj) 上端52°、下端52°でいずれも直線的に連続。径3~5mmに細かく岩片化。岩片間は砂状化(粗粒砂主体)。岩片の多くは直線的なせん断面方向に配列している。マンガン汚染し、暗緑灰色を呈する。幅40mm。 139.88~139.95m: D 直線的なせん断面と平行に近い割れ目が多い。原岩組織は残留する。マンガン汚染著しい。 139.95~140.00m: CL 硬さ「C」岩片主体。	6	100																										
									139.82~139.88m: 砕砕部 139.82m: 粘土状部 (Hc-1) 52°で直線的に連続。軟質で、石英粒、岩片を含まない。暗緑灰色~灰褐色を呈する。幅0.5~1mm。 139.82~139.88m: 砂混じり岩片状部 (Hj) 上端52°、下端52°でいずれも直線的に連続。径3~5mmに細かく岩片化。岩片間は砂状化(粗粒砂主体)。岩片の多くは直線的なせん断面方向に配列している。マンガン汚染し、暗緑灰色を呈する。幅40mm。 139.88~139.95m: D 直線的なせん断面と平行に近い割れ目が多い。原岩組織は残留する。マンガン汚染著しい。 139.95~140.00m: CL 硬さ「C」岩片主体。	6	100																										

孔番 : H27-B-1

深度 0.00m ~ 18.00m



孔番 : H27-B-1

深度 18.00m ~ 36.00m



孔番 : H27-B-1

深度 36.00m ~ 54.00m





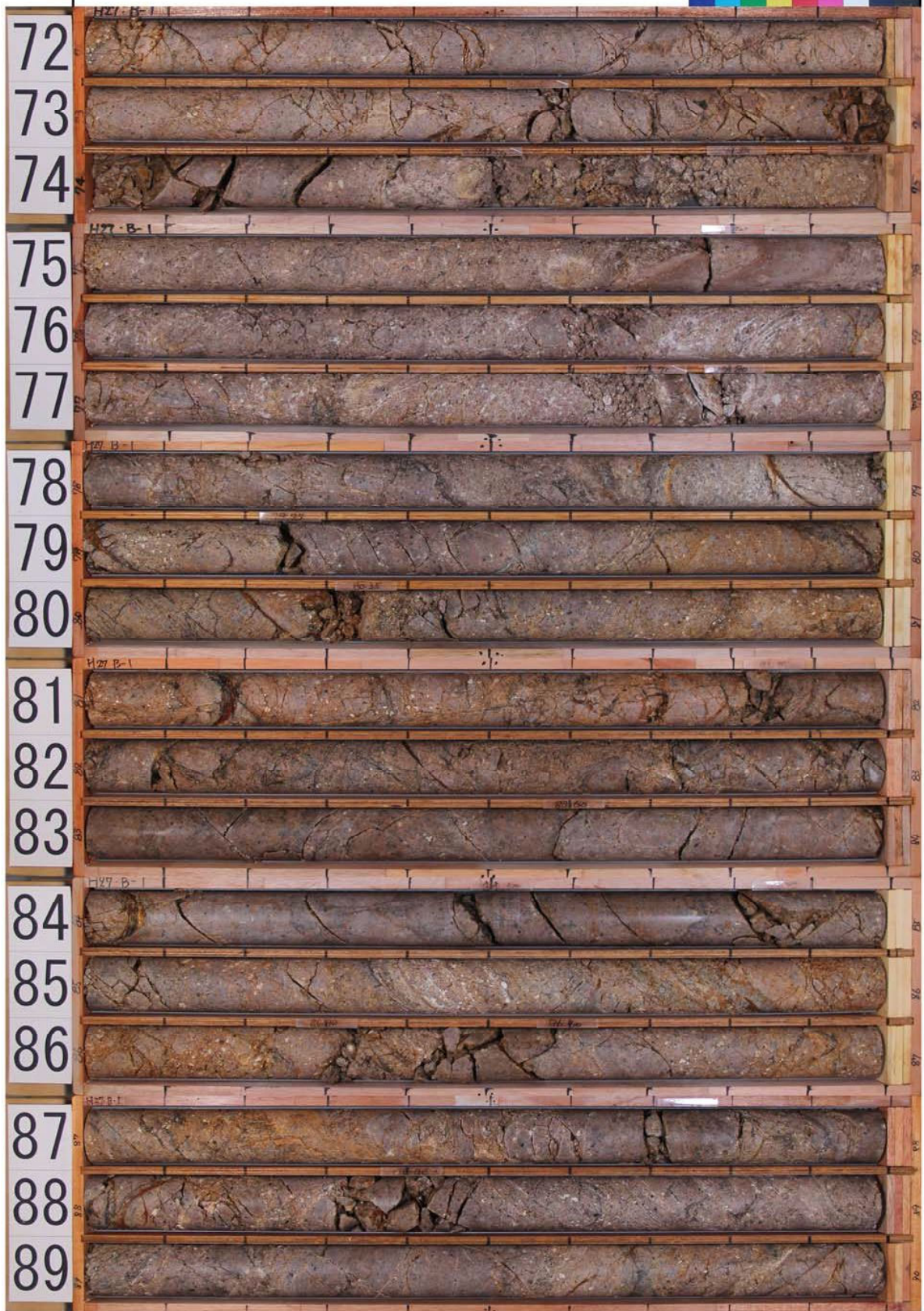
孔番 : H27-B-1

深度 54.00m ~ 72.00m



孔番 : H27-B-1

深度 72.00m ~ 90.00m



孔番 : H27-B-1

深度 90.00m ~ 108.00m



孔番 : H27-B-1

深度 108.00m ~ 126.00m



孔番 : H27-B-1

深度 126.00m ~ 140.00m



余白

H27-B-2

余白





標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
														( N 値 ~ 深度 ) 図																										
		15.99	5.83		コア欠如	にぶい黄橙								0	10	20	30	40	50																					
6				盛土	にぶい黄	灰				5.83~7.00m: 砂混じりシルト質粗粒砂主体で、6.80~7.00mは礫質極粗粒砂からなる。																														
7		15.04	7.17		にぶい黄橙					7.00~7.12m: 合板が分布する。 7.12~7.17m: 径8cmの花崗斑岩の角礫を含む。 7.17~7.41m: スライム砂混じりシルトからなる。軟質。 7.41~8.53m: スライム径10cm以下の花崗岩類の亜角~角礫からなる。コアの形状をなしていない。差異部は流出している。																														
8				コア欠如	にぶい褐					8.11~8.20m: スライムルーズなシルト質礫からなる。																														
9					灰褐					8.53~9.70m: スライム砂・礫混じりシルトからなる。軟質。下部は植物片が混じる。																														
					褐灰					9.70~9.80m: スライム径8cmの花崗斑岩の礫からなる。 9.80~10.42m: スライム砂・礫混じりシルト~礫混じり砂からなる。軟質。植物片混じる。礫は径3cm以下の花崗岩類の角礫からなる。																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
														( N )	( 値 )											
11				コア欠如	褐灰									0 10 20 30 40 50												
					灰白																					
					明黄褐																					
					褐灰																					
12	11.39 12.33		砂礫	コア欠如	にぶい橙									0 10 20 30 40 50												
					褐灰																					
					にぶい褐																					
					黄褐																					
13	11.07 12.79		砂礫	コア欠如	褐									0 10 20 30 40 50												
					褐灰																					
					黄褐																					
					にぶい橙																					
14	10.54 13.53		花崗斑岩	コア欠如	にぶい橙									0 10 20 30 40 50												
					にぶい黄橙																					
					Dg Vg cg δ 2																					
					にぶい黄橙																					
14	9.58 14.89		花崗斑岩	コア欠如	にぶい黄橙								0 10 20 30 40 50													
					にぶい黄橙																					

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル ノ ー ツ	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)											
													0	10	20	30	40												50										
	9.44	15.09	+	明褐灰 花崗斑岩	明褐灰	Vg	δ	2	15.62~19.80m: 所々、割れ目に沿ったマンガン濃集部が見られる。	3 (0)	CL'																												
16															16.50~16.51m: 25° の割れ目に沿って緑泥石が分布する。	4 (0)																							
17															17.16m以深は上位に比べ割れ目がやや少なくなる。	4 (0)																							
18															17.57~17.64m: 35~40° の割れ目に沿って緑泥石が分布する。	4 (0)																							
19															18.20~18.35m: 20° の割れ目に沿って黄褐色酸化が見られる。 18.59m: 10° の割れ目に幅1cm程度の褐色の砂状部を挟む。	10 (10)																							
									19.59~19.80m: 10mm程度の間隔で割れ目が分布し、マンガンと石英を伴う。 19.70m以浅は風化が進み軟質化する。	6 (0)																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																									
														0	10	20	30	40												50																																																								
		21	花崗斑岩 明褐灰				IV <sub>g</sub> D <sub>g</sub>			20.25m : 30° の割れ目に幅1~5mmの黄灰色砂状部を挟む。	0 50 100																																																																											
		22								V <sub>g</sub> CG IV <sub>g</sub>																					δ	20.90m : 5° の割れ目沿いに幅約10mm砂状化を呈する。	0 50 100																																																					
		22																														B <sub>g</sub> CG IV <sub>g</sub>																											2	21.67m : 0° の割れ目に幅1mmの暗灰色粘土を挟在する。上端側の幅10mmは淡黄褐色を呈する。 21.79~26.82m : 硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も含み両者が交互に出現する。割れ目沿いに風化で砂状化する部分が多い。 21.90m : 径10mmの石英斑晶が80° の割れ目で横断される。80° の割れ目は1条ではなく、分岐しており、分岐したそれぞれの割れ目は不連続である。高角度割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目も存在しない。 22.10~22.50m : 硬さ「B」で硬質。	0 50 100																									
		23																																																										V <sub>g</sub> D <sub>g</sub>																										
		24								CG IV <sub>g</sub> CG																					γ	23.52m・30° と 23.82m・20° の各割れ目に幅1mmのやや硬質な灰褐色粘土脈を挟む。 23.89m : 25° の割れ目に幅5mmの黒灰色シルト質砂を挟在する。	0 50 100																																																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	硬軟 状態	割れ目 の状態 変化	記 事	コア採取率 → ( % ) 最大コア長 ← cm R Q D └ [ % ]	岩級 区分	孔内水位 (m) / 測定 月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内 試験 日	掘進 速度 ( cm / 時 )	孔径 ( mm ) / 孔壁 保護	コア チップ ノズル	給 回 送 水 量 ( L / 分 )	圧 強 ( MPa )	送 水 量 ( L / 分 )	排 水 量 ( L / 分 )						
												0	10	20	30	40										50					
26			+				IV <sub>g</sub>	25.41m : 20° 割れ目沿いに径0.5~1mmと微細な雲母(セリサイト)が晶出している。	1 (1)			0	10	20	30	40	50														
27			+				cg	25.84m : 74° の割れ目は交差する5~10° の割れ目を止めている場合と横断する場合がある。割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。高角度割れ目と系統的な割れ目も存在しない。25.80mの高角度割れ目と交差する低角度割れ目には、ずれは認められない。	7 (0)			0	10	20	30	40	50														
			+				IV <sub>g</sub>	26.82m以深は硬さ「D」が主体となる。 27.04~27.90m : 割れ目面にマンガンが付着する。	9 (0)			0	10	20	30	40	50														
28			+				cg					0	10	20	30	40	50														
29			+				Dg	27.91m : 20° で幅1mmの石英脈が交差する85° の割れ目を横断する。また、27.88mの低角度の潜在割れ目も85° の割れ目を横断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 28.02m以深、10mm間隔の風化した割れ目が発達し、片状~層状化している。割れ目沿いに風化して砂状化することが多い。 28.24~28.94m : 割れ目に沿った風化・変質が見られる。 28.55m : 25° の割れ目に幅10mmの硬質な黄灰色シルト質砂を挟在する。	3 (0)			0	10	20	30	40	50														
			+				V <sub>g</sub>	29.19m : 50° の割れ目に幅3mmの灰白色粘土を挟在する。	4 (0)			0	10	20	30	40	50														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																														
															試験																																													
31			[柱状図]	花崗斑岩	明褐色	Dg					30.10~30.82m : D 概ね径10mm以下に砕けている。風化で割れ目沿いに砂状化が拡大している。径5~30mmの硬さ「D」「C」岩片が多く残留し、硬質な砂礫状を呈する。基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土部も散在している。原岩組織や上部の割れ目は残留している。	0	CL'																																															
					明褐色	Eg	Vg	cg						30.82~31.15m : CL 割れ目沿いに砂状化することが多い。	3																																													
					にぶい黄褐色	Dg								●31.15~31.66m : 破砕部 31.15~31.24m : 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端20°で直線的、下端15~28°で薄曲して連続。一部粘土化した径5~10mmの岩片と岩片間の粘土~幅1~2mmの粘土細脈からなる。にぶい黄褐色を呈する。幅90~90mm。 31.24~31.28m : 粘土質礫状部 (Hb) 上端15~28°で薄曲して、下端38°で波打って連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの大半が粘土化した岩片を計20~30%含む。やや軟質。明赤灰色を呈する。幅20~30mm。 31.28~31.29m : 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜38°で上端は波打って、下端は直線的に連続。径2~3mmの石英粒を10~20%含む。やや軟質。灰黄褐色を呈する。幅5~10mm。 31.29~31.66m : 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端38°で直線的に、下端43°で波打って連続。径5~20mmの硬さ「C」主体 (他に粘土化、硬さ「D」「E」含む) の岩片と岩片間の粘土からなる。にぶい褐色を呈する。 31.78~34.37m : D 風化で割れ目沿いに砂状化が拡大する。原岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。所々に幅1~3mmの白色軟質粘土脈を挟む。	2																																													
					にぶい褐色	Eg	Vg	dg						31.91~31.96m : 25~30°の割れ目に軟質な幅1~3mmの褐色粘土を挟む。 32.45~32.59m : 8~48°の割れ目沿いに灰白色粘土を挟む。粘土は一部網目状に分布する。 33.00~33.25m : 粘土化が進み、原岩組織は不明瞭となる。 33.35~33.40m : 硬さ「D」の岩片主体。 33.60m : 5°で幅1mmの軟質な赤灰色粘土脈を挟む。 33.77m : 7°で幅5~8mmのマンガン鉱染部が脈状に分布する。 33.79~33.87m : 硬さ「D」の岩片主体。 33.96m : 深は原岩組織が不明瞭な硬質な砂状部主体。割れ目の一部は残留するが、消滅しているものが多い。 33.97m : 25°の割れ目に幅2~4mmの褐色粘土を挟む。	1																																													
32			[柱状図]	花崗斑岩	灰褐色	Dg							D'																																															
					明褐色	Eg	Vg	cg																																																				
33			[柱状図]	花崗斑岩	明褐色	Eg	Vg	cg																																																				
																																浅黄	Dg	Vg	cg						●34.37~34.48m : 破砕部 34.37m : 粘土状部 (Hc-1) 傾斜13°で上端は直線的、下端は波打って連続。径2mmの石英粒をわずかに (5%以下) 含む。軟質。軟質な粘土は75°のせん断面と交差し、2mmみかけ右側に変位して切られている。マンガン鉱染を伴う。黒褐色を呈する。幅2~6mm。 34.37~34.48m : 粘土質礫状部 (Hb) 上端13°で波打って、下端20°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を計30%程度含む。浅黄~明赤灰色を呈する。幅90mm。 34.48~35.13m : CL 34.59m・29°と34.67m・50°の割れ目は68°で幅1mmのマンガン脈、一部石英脈を止めている。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	2																		
																																にぶい褐色	Dg	Vg	cg																									
34			[柱状図]	花崗斑岩	明褐色	Eg	Vg	cg																																																				
																															浅黄	Dg	Vg	cg																										
34			[柱状図]	花崗斑岩	明褐色	Eg	Vg	cg																																																				
																															浅黄	Dg	Vg	cg																										

標 尺	標 高	深 度	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	変 質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↳ [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 月 日	( 標準貫入 ) 試験		原 位 置 試 験 ( 孔 内 水 平 藍 色 )	室 内 試 験	掘 進 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル / ピ ー ッ ト	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)		
														( N 値 ~ 深 度 ) 図	( N 値 )													
		36		花崗斑岩		Cg	Vg	cg	3			CL'																
							Vlg	dg	4				D'															
							Eg		δ																			
							Vg		3																			
		37					Dg																					
							IVg		γ																			
							Cg																					
							Vg		δ																			
		38							cg																			
							Bg						CL'															
								2																				
		39				Cg	IVg		γ																			
						Dg		δ																				
						Eg	Vg																					





標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														( N )	( N )	( N )	( N )	( N )																			
		46		明褐灰	Dg				δ	<p>45.10~45.25m: 硬さ「C」の硬質岩片が分布。</p> <p>45.96~46.31m: 硬さ「C」で硬質。割れ目は幅1~3mm程度で砂状化する。</p>																											
		47			Cg							γ																									
		48			Eg	VIg	dg				2		δ		<p>46.73~46.85m: 硬さ「D」原岩組織と割れ目は消滅している。硬さ「D」主体の径3~10mmに細岩片化している。</p> <p>46.73~46.85m: 割れ目沿いに砂状化が進み、硬さ「E」が主体。</p> <p>46.90~47.06m: 風化による二次石英が径1~2mmの斑点状~幅1~2mmの脈状で露出し、全体が硬さ「C」と硬質。</p>																						
						Dg	VIg	cg								δ																					
		49			Eg	VIg	dg				2	δ	<p>47.50~48.09m: CL 47.85m以達は硬さ「D」主体。47.85m以達は硬さ「C」主体で、47.85m以達は風化で割れ目沿いの一部は砂状化が進み、岩片自身も軟質化している。</p>																								
						Cg	IVg	cg								γ																					
		49			Eg	VIg	dg				2	δ	<p>●48.08~48.12m: 破砕部</p> <p>48.08~48.12m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端53°、下端56°でいずれも直線的に連続。径1~3mmの石英粒。径3~5mmの硬さ「D」岩片を20~30%含む。やや硬質。上端部にマンガン鉱染を伴う。灰黄褐~黒褐色 (上端部のみ) を呈する。幅20mm。</p> <p>48.12m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜56°で上下端とも直線的に連続。径0.5~1mmの石英粒を20%程度含む。やや硬質。黒褐色を呈する。幅1mm。マンガン鉱染を伴っている。</p> <p>48.12~52.42m: CL 概ね長さ5cm前後の短柱状コアが主体。</p> <p>48.12~48.51m: 60~70°の割れ目が主体。割れ目に砂や粘土の挟在物が分布する。これらの割れ目は上位の破砕部と同方向に近い。</p> <p>48.51~48.60m: 硬質な砂状化を呈する。</p> <p>48.84~48.89m: 上端20°、下端33°の割れ目に囲まれ硬質な砂状化を呈する。</p> <p>49.00~49.34m: 割れ目沿いに風化・砂状化が進み、コアチューブ引上げ時に乱され、礫状コアを呈している。密着割れ目も風化してハンマーの打撃で分離し易い。硬さ「C」が主体であるが、風化で軟質化した硬さ「D」や逆に堅硬な硬さ「B」も含む。</p>																								
							Dg	VIg	cg								δ																				
					Cg	IVg					γ																										



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
															0	10	20	30	40												50
56			+	花崗斑岩	明赤灰	Eg	VIg	dg	4		55.00m以浅は岩片やマンガン鉱染部を脈状に含む。55.00m以深は白色粘土化部や赤灰色粘土細脈を多く含む。	0	D'																		
											55.24~57.70m : CL 硬さ「D」岩片が主体。割れ目沿いに風化が進む部分では硬さ「E」や硬質な砂状部も分布する。割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。																				
57			+	花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg	6		56.83~57.00m : 割れ目沿いの風化が進み、砂状化する。残留する硬さ「D」の径5~10mmの岩片とともに砂礫状を呈する。 57.00~57.45m : 密着度の低い割れ目が密集し、径10mm程度に細岩片化する。硬さ「C」の岩片も多く含む。	3	CL'																		
											57.45~57.70m : 割れ目沿いに砂状化が進み、全体に上位より軟質化が進む。 57.70~57.99m : CL 原岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、一部は硬質な砂状部となる。																				
58			+	花崗斑岩	にぶい黄橙	Cg			2		57.99~58.28m : CL 岩片は硬いが、20~30°の割れ目が10~30mm間隔で同方向に発達。マンガン鉱染も伴う。 58.28~58.73m : CM マンガン鉱染で割れ目は黒褐色化するが、砂や粘土などの挟在物は分布しない。	4	D'																		
											58.73~59.71m : CL 割れ目沿いに砂状化し、密着度の低い割れ目も多い。全体として脆い。 59.35~59.54m : 硬さ「C」主体。 59.71~60.00m : D 強風化で硬質な砂状部主体。径10mm前後の岩片が残留し、砂礫状を呈する。																				
59			+	花崗斑岩	にぶい褐	Bg	IVg	bg				5	D'																		
																															59.35~59.54m : 硬さ「C」主体。 59.71~60.00m : D 強風化で硬質な砂状部主体。径10mm前後の岩片が残留し、砂礫状を呈する。



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
													N	値	0	10	20												30	40	50									
66			花崗斑岩	灰褐色	Bg IIIg bg β				65.00~65.17m: 柱状コア(コア長17cm)。	0	CH																													
					Eg VIg dg ε				65.18~65.36m: D 割れ目沿いに砂状化が拡大し、硬質な砂礫状を呈する。	50																														
				にぶい橙	IVg				65.36~69.05m: CL 岩片は堅硬であるが、割れ目沿いに砂状化が進むことが多い。粘土化部や粘土層は殆んど含まない。上端側と下端側は短柱状コア主体、中央部は片状コア主体で一部割れ目沿いに砂状化が進む。	17																														
					Cg				65.96~66.01m: 砂状化が進んでいる。	117																														
				にぶい黄橙	Dg				66.20~68.01m: 上下位に比べ風化がやや進む。	β																														
					Dg				66.39~66.65m: 割れ目沿いに砂状化が進む。 66.39~66.44m: コアチューブ引上げ時に乱され、径10mm前後の岩片状コアを呈する。 66.65~67.00m: 硬さ「B」の堅硬な岩片も多く含む。	β																														
				にぶい黄橙	Cg	Vg			67.00~67.46m: 落下コア回収のため岩片状を呈する。	β																														
					Dg				67.48~67.63m: 柱状コア(コア長15cm)。 67.65~68.05m: 硬さ「D」の岩片主体で一部割れ目沿いに砂状化する。	β																														
68				にぶい黄橙	Vg	dg			●68.02~68.06m: 破砕部 68.02~68.05m: 砂混じり礫状部(Hj)	β																														
					Eg	Vg	cg		上端40°で不明瞭に連続。下端41°で直線的に連続。微細な割れ目が発達し、一部の岩片は下位の粘土と同方向に定向性を示す。にぶい橙色を呈する。幅25mm。 68.05~68.06m: 礫混じり粘土状部(Ho-2) 上端41°で直線的に連続。下端30°で波打って連続。上端には径1mmの石英粒をごく少量(5%以下)含む幅1~2mmの淡黄色軟質粘土を伴う。明褐色を呈する。幅10mm。 68.06~68.12m: 粘土混じり礫状を呈するが、硬質で岩片間に分布する粘土層に系統性がなく、原岩組織が明確に認められる。 68.12~68.39m: 岩片状を呈し、軟質化が著しい。 68.39~69.30m: CM 堅硬であるが、割れ目がやや多い。一部で長石が白濁化するが少ない。挟在物は少ない。 69.30~69.95m: CL	β																														
			灰褐色	IVg	bg					12																														
				Bg						12																														
			灰褐色	Vg						10																														
				IVg	cg					10																														
			灰褐色	Cg	Vg					10																														
				Bg	IVg	bg					10																													
									69.95~71.06m: CM 割れ目には殆んど挟在物は分布しないが、70.66m・57°と70.70m・60°の割れ目に囲まれて片状化する。前者の割れ目では面沿いに幅1~2mmで砂状化する。径0.5~1mmの雲母(セリサイト)が晶出している。																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位試験 (孔内水平膨脹)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
														0	10	20	30	40												50											
		71	花崗斑岩	灰褐						71.06~71.98m : CL 30° と 60~75° の割れ目が交差し、交差部の一部では幅10~60mmで硬質な砂状~砂礫状を呈する。粘土化部も点在するがわずかである。		CM'																													
		72								Dg Vg cg δ 3			71.88~76.11m : CM 一部で風化による砂状部を幅2~3mmで挟むが、挟在物を伴わない割れ目が多い。																												
		73											72.48~72.57m : 割れ目沿いに褐色化が進むが、硬質で砂状化はない。 72.57~73.16m : 長さ10cm以上の硬質コア主体。																												
		74								Bg IVg bg β 2			73.20~75.00m : 20~30° と 60~70° の割れ目が交差し、交差部の一部で片状~角礫状化するが、砂状部や粘土状部は伴わない。																												
																			74.85~75.00m : 割れ目沿いにマンガン鉱染を受ける。																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記号	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
															( N値~深度 ) 図																				
				花崗斑岩	灰褐		Ⅳε bg β				27 27	← ( % ) → R Q D └ [ % ]	CM'																						
76							Ⅴε cg γ				9 9		CL'																						
77							Bg			2	15 15																								
78							Ⅳε bg β				15 15		CM'																						
79							Ⅳε bg β				15 15		CM'																						
							Cg Ⅴε cg γ				8 8		CL'																						



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( ) 図 ( N 値 ~ 深度 )					原位試験 (孔内水平露露)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
															0	10	20	30	40											
81			+	花崗斑岩	灰褐	Cg	Vg	cg	γ		80.19~80.49m : CM 一部に密着度の低い割れ目を含む。割れ目に挟在物は分布しない。	0	CL'																	
											80.48~83.12m : CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。ゆる割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布する程度。全体に径2~3mmの暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。長石の白濁化は殆んど認められない。	1								20	40	60								
											81.10~81.35m : 径2~5mmの斑点状にマンガン鉱染を受け、灰褐色を帯びる。劣化は伴わない。	20								40	60									
82			+	花崗斑岩	灰褐	Bg	bg	β	2		82.10~82.30m : 硬化変質により径5~10mmの斑点状~幅10mmの脈状の石英が晶出し、上下位よりも硬質となっている。	45	CH'																	
											82.72~82.86m : 密着度の低い割れ目を含む。	45							60											
											83.12~83.79m : CL 83.46m以深は20~50°の割れ目が多く、割れ目沿いに砂状化が進む。マンガン鉱染も伴う。岩片自身も硬さ「D」に軟質化する。83.46m以深は割れ目は多いが、硬質で挟在物は殆んど分布しない。	1							11	40										
84			+	花崗斑岩	にぶい褐	Dg	Vg	cg	δ	3	83.79~84.43m : CM 堅硬。84.35~84.38m間が10~15°の割れ目沿いにごく薄く風化、砂状化する以外は割れ目に挟在物は分布しない。一部にゆる割れ目が分布するが、密着度が高く、ハンマーの打撃で分離しない。	12	CL'																	
											84.43~84.61m : CL 硬さ「C」の岩片主体。多くの割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化するが、粘土化はない。	12						40												
											84.61~85.50m : CL 硬さ「D」岩片主体。一部で割れ目沿いに風化。砂状化が進む部分もある。長石の白濁化が目立つ。	12						40												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)	排水量 (L/分)														
															( N 値 ~ 深度 ) 図	( N 値 )																								
			花崗斑岩 にぶい褐	花崗斑岩	Dg	Vg	cg			3	85.15m : 50° で幅5mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。 85.24~85.35m : 砂状化が進む。40°前後の割れ目が残留する。																													
					Eg	Vg	cg				4	85.50~85.58m : D 粘土化が進む。 ●85.58~85.76m : 破砕部 85.58~85.63m : 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上線40° で直線的に、下線48° で一部不明瞭ながら直線的に連続。径5~10mmの硬さ「D」岩片と岩片間の粘土状部からなる。上端付近に幅5mmの石英脈が下位のHo-2の粘土とほぼ同方向に分布するが途中で消滅する。灰黄色を呈する。幅35mm。 85.63~85.64m : 雑混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜48° で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続。下端は波打って連続。径2~3mmの石英粒。径5mmの硬さ「D」岩片を10%含む。軟質。淡黄色を呈する。幅5mm。 85.64~85.76m : 粘土・砂混じり岩片状部 (Hj) 上線48° で波打って、下線32° で、幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈として直線的に連続。上位のHo-2の粘土と同方向に斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化している。岩片間の一部は粘土~砂状化し、幅1mmの灰白色粘土脈が分布。85.68m・53° のシャープなせん断面が分布し、これに深は一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。淡黄~にぶい褐色を呈する。幅100~120mm。 85.76~87.47m : CL 86.52m以浅は硬さ「D」、86.52m以深は硬さ「C」の岩片主体で、後者では一部に短柱状コアも含む。前者では一部の割れ目沿いが砂状化する。 85.76~86.00m : 径10mmの斑点状幅2mm・20° の脈状に石英を含む。 87.47~87.89m : CH 堅硬。長石の一部は白濁化する。一部でゆ着割れ目を含むが、密着度が高くハンマーの強打で分離しない。 87.90~88.38m : CL 一部の割れ目沿いは風化で薄く砂状化する。密着度の低い潜在割れ目が多く、ハンマーの打撃で潜在割れ目沿いに分離・細片化し易い。																												
					Cg	Vg	cg					2	●88.38~88.43m : 破砕部 88.38~88.42m : 砂混じり岩片状部 (Hj) 傾斜50° で、上端は直線的な密着割れ目で、下端は直線的に連続。下位のHo-1の粘土と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目により径5~10mmに岩片化している。粘土は殆んど伴わないが、一部の岩片間では砂状化する。にぶい褐色を呈する。幅35mm。 88.42~88.43m : 粘土状部 (Ho-1) 傾斜50° で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片を殆んど含まない。軟質。明黄褐色を呈する。幅5mm。 88.43~88.88m : CL 20~40° の低角度で直線的な割れ目が多い。一部で砂を挟む。 ●88.88~88.94m : 破砕部 88.88~88.92m : 粘土・砂混じり岩片状部 (Hj) 傾斜30° で、上端は幅0.5mmの軟質な白色粘土脈で直線的に、下端も直線的に連続。下位のHo-2の粘土と同方向に細かい割れ目が発達し、径5mmの岩片に細片化している。岩片間は幅1mm以下でごく薄く粘土~砂状化する。にぶい黄褐色を呈する。幅25~35mm。 88.92~88.94m : 雑混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜30° で、上下端とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒。径5mmの粘土化岩片を計15%含む。軟質。灰白色を呈する。幅15~20mm。 88.94~91.69m : D 割れ目沿いに風化が進み、砂状化部が拡大している。90.81m以浅は径5~20mmの硬さ「C」「D」の岩片が残留し、硬質な砂状部を基質とする砂礫状を呈する。原岩組織はほぼ消滅している。90.81m以深は硬さ「D」の岩片主体で原岩組織と割れ目の大半は残留している。割れ目は40~60° が主体。																											
					Bg	Vg	cg																																	
					Cg	Vg	cg																																	
					Eg	Vg	cg																																	
					Eg	Vg	cg																																	
					Eg	Vg	cg																																	
					Eg	Vg	cg																																	
					Eg	Vg	cg																																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コーア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	標準貫入試験 (N値~深度) 図	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)													
															0	10	20	30	40												50												
				灰褐																																							
91				にぶい褐	Eg																																						
				にぶい褐	Vg	cg																																					
				にぶい褐	ViE	dg																																					
92				花崗斑岩	IVg																																						
				花崗斑岩	Cg																																						
93				にぶい橙		cg																																					
				にぶい橙	Vg																																						
94				にぶい橙	Bg																																						
				にぶい橙	Cg																																						
			緑灰	Bg	IIIg	bg	β																																				